

令和3年度（2021年度）事業報告

自 令和3年（2021年）4月 1日
至 令和4年（2022年）3月31日

公益財団法人札幌市公園緑化協会

事業運営の概要

協会の目的達成のため、コンプライアンスの徹底、安全と安心、公平で平等な利用の確保を基本として、みどり豊かで潤いのある持続可能な都市づくりの推進、健全な地域社会の形成、生活文化・福祉の向上に努めました。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症により、引き続き多くの公園で花見期間中の制限や公園施設の利用中止、予定していた事業の中止・縮小など、大きな影響を被りました。また、旭山記念公園ではヒグマの出没情報により一定期間閉鎖することとなりました。これらの事態に対して当協会では、北海道・札幌市の施策や指示の下、適宜協議を行いながら公園施設を適切に維持するとともに、市民・利用者と職員の健康・安全を守るため可能な限りの対策を講じ、正確な情報発信に努めてきたところです。

その中で公1事業では、ふるさと納税が好調なことから札幌市都市緑化基金に2,900万円超の寄付をいただきましたが、長引く低金利運用の下、基金の果実だけではなく、収益事業からの繰入れにより記念樹の配付やツタ苗の補助などの民有地緑化事業を実施するとともに、園芸解説書の発行、ガーデニングボランティア養成講座、WEBフォトコンテスト等を開催しました。また、花と緑のボランティアネットワーク活動推進のための会報誌の発行、活動支援のための講師派遣のほか、講習会や講演会をYouTube・ZOOMなどで開催し、インターネットを活用した取組みを進めました。

公2事業では、指定管理計画及び札幌市との協議等に基づき、確実に事業を実施しました。公園施設の維持管理面では、巡視・巡回、点検・修繕、衛生や美観保持のための清掃、記録的大雪への的確な対応など、安全と快適性の確保に努めました。また、特定外来生物などへの対応、生物多様性や在来種を重視した植物管理、美しい芝生の維持や季節感のある花壇、健全な樹林づくりなど、良好な景観形成と潤いのあるオープンスペースの創出に努めました。管理運営面では、コロナ禍での適正な情報提供、安全と快適性確保のための利用指導や調整、各公園施設の特性を活かしたイベントや利用プログラムを展開しました。市民参加・協働等においては、登録ボランティアによる様々な活動、地域や他団体と多様な連携協力などを行い、公2事業のあらゆる面で満足度の高い運営に留意しました。

国営滝野すずらん丘陵公園では、令和2年度にヒグマが計4回、園内に侵入しましたが、電気柵増設など侵入防止対策を強化し、園内に配置した400台超のカメラにより監視を続けた結果、令和3年度は園内へのヒグマ侵入は確認されませんでした。またその一方で、緊急事態宣言下の最盛期に延べ90日間の閉園を余儀なくされましたが、管理業務代表団体として計画どおり施設管理や植物管理を行うとともに、適正な事業の実施等に腐心しました。

収益事業では、コロナ禍により各公園施設における来園者数の減少が続いたものの、公益事業の原資となる営業収益の確保のため、引き続き季節感と付加価値のある植物販売、ニーズや公園特性に応じた商品の提供など、お客様サービスの向上に努めました。

対外的な取組みとして、全道公園協会連絡会総会や全国植物園協会運営会議の開催都市として全体的な調整を行い運営してきたほか、令和4年度に開催される全国都市緑化フェア協賛会場としての準備や、全国公園協会協議会総会と都市緑化基金等連絡協議会研修の担当都市として準備を進めてきました。

法人運営全体としては、組織改編と職員採用を進め、有期雇用契約者の採用についても優秀な人材の確保に努め、公園施設の管理に必要な資格取得の推進や各種研修を実施しました。また特に年度当初には安全衛生、作業機械類の取り扱いなどの研修や消防訓練などを積み重ねて総合的な危機対応力を高め、事故発生の未然防止に取り組むなど、人材育成とガバナンスの強化に意を用いました。

またコロナ禍により様々な面で急速にデジタル化が進む中、各種システムを見直しするとともに、労働環境の整備など、業務の効率化・経費の縮減を図り、職員の働き方の改善と強靱な組織の構築を進めてきました。

公 1 都市緑化基金等事業

札幌市都市緑化基金への募金等造成状況

令和4年3月31日現在

区 分		昭和59年度～ 令和2年度	令和3年度	累 計
(財)都市緑化基金助成		3,000,000	0	3,000,000
札幌市補助金		468,827,294	29,065,000	497,892,294
	助成等	287,174,944	0	287,174,944
	一般募金	181,652,350	29,065,000	210,717,350
協会への寄付金		30,022,248	358,840	30,381,088
	個 人	1,407,934	1,000	1,408,934
	募金箱	4,397,848	168,016	4,565,864
	企業・団体	13,936,466	189,824	14,126,290
	協会繰入	10,280,000	0	10,280,000
総 計		501,849,542	29,423,840	531,273,382

1 植樹等による民有地緑化事業

(1) 苗木の配布

植樹機会の誘引など民有地緑化の推進を図るため、市民の慶事に際してライラック 169 本、シラタマミズキ 69 本、ラベンダー113 本、アナベル 74 本のほか、中道リース株式会社寄贈のエゾヤマザクラ 50 本の合計 475 本の苗木を配布した。

(2) 壁面緑化の推進

塀や建物を植物で覆うことにより、民有地緑化の推進を図るため、札幌市内の家庭及び事業所等に合計 3 件 14 株(補助は半数)のナツツタの苗を配布した。

2 緑化推進に関する普及啓発事業

(1) キラリ！さっぽろ公園 30 選 2021

緑化意識の高揚と啓発を図るため、札幌市内の公園・緑地で撮影した緑や花、憩いのひととき、自然とのふれあい等がテーマの WEB フォトコンテストを実施し、グランプリ 1 点、準グランプリ3点、キラリ賞 27 点を選出し、ホームページ上で公開した。

応募総数 204 人 695 点

(2) 第 55 回緑の絵コンクール

次代を担う子どもたちがみどりに親しみと興味を持ち、理解を深めてもらうため、札幌市内の小・中学生を対象に緑をテーマとした絵画コンクールを実施し、入賞作品 41 点、最優秀学校賞 3 校を選考した。

参加学校数 59 校 応募総数 339 点

入賞作品展示 期間:令和 3 年 11 月 26 日～11 月 30 日

場所:札幌地下街オーロラコーナー

(3) 園芸等に関する冊子の発行

北国札幌で植物を扱う上での特徴や花や緑にふれる楽しさ等、園芸に関する知識や技術を解説した冊子を作成・配布した。

タイトル:すくすくみどりNo.30 「初めて宿根草～誰でもかんたん・宿根草ガイド～」

内容:宿根草とはどんなものか、どのような種類があるのか写真を多用し初心者にも分かりやすく解説。

3 都市緑化サポーター養成事業

さっぽろまちづくりガーデニング講座

花や緑を通して地域や社会に貢献できるボランティア、都市緑化のサポーターの養成を目的に、まちづくりや園芸等の知識、技術を講義と実習で学ぶ連続講座を開講した。

期間:令和 3 年 4 月 3 日～11 月 13 日

内容:講義と実習を組み合わせた全 17 回のカリキュラム 受講者:12 人

※全 17 回のうち5回の講義・実習は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況をふまえ中止し、次年度に実施予定の同講座の同テーマへ振り替えることとした。

4 緑を通して地域コミュニティの活性化を促す事業

フラワーポットの貸出し

身近な花と緑の創出、地域の環境改善・美化、地域コミュニティの活性化等を図るため、札幌市内の団体にフラワーポットを 3 年間無料で貸し出した。初年度は花苗と培養土も提供した。

貸出数:4団体 100 基(花苗 500 株)。

5 緑のまちづくり活動への助成及び支援事業

(1) さっぽろガーデンシティ活動事業助成

都市緑化の推進、緑化活動によるコミュニティの活性化等を図るため、市民団体等が行う花や緑を切り口としたまちづくり事業に対して、必要経費の一部を助成する事業を募集した。

※助成財源:一般財団法人民間都市開発推進機構(MINTO 機構)からの拠出金

(2) さっぽろ花と緑のネットワーク事務局の運営 ※さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業委託業務

花と緑のボランティア活動に携わる人、関心を持つ人の相互交流や活動支援のため、「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」を設置、運営し、花と緑のまちづくり活動に役立つ講習の開催や情報の発信、支援情報の提供、イベントの企画運営を行った。また、市民に向けて「さっぽろ花と緑のネットワーク」を周知する広報イベント等を実施し、登録促進を図った。

① 登録数・・・団体 34 団体、個人 277 人（令和 4 年 3 月 31 日現在）

② 情報発信・広報

会報誌の発行(4回)、専用ホームページの運営・更新、公共施設へのポスター掲示、リーフレット、ハンドブックの配架、ソーシャルネットワークサービス(SNS)・YouTube チャンネルの活用のほか、札幌市のマイタウン・マイフラワー事業に合わせて種まき・育苗方法等の動画を製作し配信した。

③ まちづくり体験実習

公共地において、植栽、メンテナンス等を通じたまちづくりへの参加体験実習を行った。

・市役所本庁舎前コンテナガーデンづくり 令和 3 年 5 月～10 月 8 回実施、延べ 109 人参加

・永山記念公園花壇づくり 令和 3 年 6 月～10 月 9 回実施、延べ 71 人参加

④ 講習会等

登録者・登録団体を対象に知識や技術の向上、花と緑のまちづくりを担う人材の育成を目的とした講習会や、花と緑のまちづくりに対する興味・関心を抱くための機会の創出を目的に体験会を実施した。

内容	参加人数	備考
講習会 寄せ植え講習会①(動画配信のみ)	17人	
講習会 寄せ植え講習会②(会場及び動画配信)	会場19人・動画配信3人	
講習会 宿根草のガーデンデザイン(全3回)	会場延べ50人 動画配信延べ96人 動画視聴回数延べ226回	
講習会 種まき・育苗サポーター養成講座(全3回)	延べ28人	うち未登録参加者延べ19人
体験会 親子体験プログラム おうちファームにチャレンジ(全3回)	13組	キット発送→動画視聴→ 製作→ZOOM講習会
体験会 押し花のフローティングフレームづくり	21人	キット発送→動画視聴→製作
体験会 苔玉づくり	25人	キット発送→動画視聴→製作
タネの交換会	18人	

⑤ 研修見学会

登録者・登録団体を対象に知識や意欲の向上等目的に恵庭市の花の拠点「はなふる」ガーデンエリアを恵庭花のまちづくり推進会議会長内倉真裕美氏のガイドでまわる見学会を実施した。

日程:令和 3 年 7 月 30 日 午前、午後に分けて 2 回実施 延べ 20 人参加

⑥ 講演会「さっぽろ花と緑のまちづくりフォーラム 2021」

YouTube によるライブ配信。※総視聴回数 389 回

日程:令和 3 年 10 月 3 日 動画配信会場:街中スペース COVO

※配信した動画が視聴できない方のために後日上映会を開催した。

〔第 1 部〕上野ファームオーナーガーデナー上野砂由紀氏による「北海道の新たな魅力～新しい時代の庭づくり」と題した講演会。

〔第 2 部〕パネルディスカッション:花と緑のまちづくりや花と緑を通じた人や地域とのつながり、活動の魅力についての意見交換会。

パネリスト:内倉真裕美氏(恵庭花のまちづくり推進会議会長)、上山謙太郎氏(恵庭市)、熊谷ゆき氏(百合が原花壇を造り隊代表)、新谷克教氏(札幌市)

コーディネーター:愛甲哲也氏(北大農学研究院准教授)

⑦ 広報イベント「さっぽろ花と緑のネットワークフェア」

花と緑のネットワーク及び登録団体の活動をパネルと映像で紹介したほか、花と緑に親しむワークショップやクイズラリー、北海道産さきアロマオイルのコーナーを設け事業 PR を行った。

日程:令和 4 年 3 月 18 日・19 日 会場:札幌駅前通地下広場 北 1 条イベントスペース東

⑧ 技術指導講師派遣

活動の技術的支援のため、登録団体・登録者が主催する講習会に講師を派遣した。

実施回数:5 回 延べ参加人数:68 人

公 2 指定管理等公園施設事業

1 公園緑地、自然環境及び都市緑化等に関する調査・研究

公園緑地における自然環境及び生物多様性の保全を図るため、生物・植物等の調査を実施するとともに、外来生物などの問題について地域全体の課題として捉えて啓発を図った。

(1) 大学、研究機関との連携による生物及び環境等の調査・研究

生物多様性の保全と自然の恵みを将来にわたり享受できる社会の実現、また持続可能な利用を推進するため、公園緑地等における現状の把握と課題の解決に向けた調査研究を行った。

このほか、大学の研究者や研究機関等と連携して自然環境等の問題について取り組み、改善に向けた対応策を検討・実施し、併せて市民への啓発を図った。

(2) 環境教育を通じた生物の調査及び報告展等の開催

次代を担う子どもたちによる生物調査プロジェクトとして、研究者等の指導により調査・研究を実施し、報告展及び展示解説を実施した。

(3) ボランティアとの協働による園内生物の調査及び報告

公園登録ボランティア等と協働で、公園緑地内の植物や生物の調査を実施し、結果を公表するなどして、市民への啓発を図った。

(4) 魚類等水生生物の調査・研究

札幌市内の河川等において、水生生物の生息状況やサケの産卵状況の把握、及び水辺環境の保全等を目的とした調査を実施し、結果を公表した。

2 公園緑地及び自然環境等に関する施設の管理運営

公園施設等において、安心・安全・快適な利用環境の確保、質の高いサービスの提供など、適正な管理運営により魅力を高めることで利用の促進に努めた。また、緑化相談や園芸講習会など、都市緑化を推進・サポートする専門性の高い事業を実施した。

(1) 安全及びホスピタリティの充実

見どころやイベント、園芸情報などについて、リーフレットやチラシ・ポスター、ホームページ、札幌市広報、マスメディアへの情報提供など、様々な手段で発信・提供した。特に、公園施設のイベント・展示会・講習会等の開催情報をまとめて紹介する「さっぽろ公園だより」を定期的に発行して広く配布・公開した。また、緑豊かで美しい公園景観の魅力を広く伝えるため、計12公園で「ガーデンアイランド北海道2021」に登録し、北海道における花と緑のネットワークづくりに貢献した。このほか、FacebookやTwitterなどの情報共有ツールを活用して、施設の状況を発信した。

新型コロナウイルス感染の対応については、各公園・施設で随時、札幌市と連携を取り、利用者の感染予防対策を行い利用者が公園の状況を適切に理解し利用するよう努めた。

また、誰もが安心して公園施設を楽しむことができるよう、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化、ハザードマップの公開、AEDの配置のほか、スタッフの救命講習受講、緊急時対応訓練の実施、接遇検定の受検等により、ホスピタリティの一層の充実に努めた。

(2) 開かれた公園管理の推進

市民参加・協働による開かれた管理運営を推進するため、花壇の維持管理やイベントの企画・運営等について、ボランティアや地域住民、関係団体等と積極的に連携を図った。

また、公園施設利用の活性化、市民の活動の場や生きがいの創出、公園を中心とした地域コミュニティ活性化などを目的として、公園施設の利活用協議会等を設置するとともに、利用者アンケート等により市民の声を管理の改善に役立て、より魅力的な公園づくりを進めた。

(3) 都市環境の保全及び改善

HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)の認証を受け、構築した EMS(環境マネジメントシステム)に基づき、公園施設等におけるエネルギー使用量の削減や資源の有効活用、生物多様性保全など、環境に配慮した取組に努めた。

また、市民参加・協働により公園内の生物多様性の保全と普及啓発を図るため、外来生物の駆除イベントを企画・実施した。

(4) 体験学習プログラム等の実施

自然、生物、歴史など、公園施設の魅力の発信と、身近な環境や緑化の大切さ、公園緑地に対する愛着の醸成を図るため、各種観察会や体験講座等を開催した。また、学校教育への協力の一環として、職場体験や博物館実習等を受け入れ、公園施設管理という仕事への理解を深めた。

(5) 公園施設の特性を生かした展示会及びイベント等の開催

園芸植物、自然、文化などの資源を生かした各種展示会やイベントを開催したほか、愛犬家のマナー向上を目的として、「愛犬といっしょの公園散歩講座」の開催や、札幌市による「リードをつないで楽しくお散歩キャンペーン」に計 15 公園が参加協力した。

(6) 植物及び自然等に関する知識・技術の普及

緑化園芸技術・知識の向上、自然等に関する普及啓発を図るため、各種園芸講習会や生物の飼育展示の企画・開催、専門スタッフによる緑の相談を実施した。

(7) 北国札幌の気候風土に適した植物管理

札幌の気候風土に適した植物を管理し、管理手法も含めた提案を行い、啓発を図った。また公園樹の健全な育成を図るため、樹木管理計画に基づいて適正な管理に努めたほか、稀少植物の保護やその啓発に取り組んだ。

特に、百合が原公園のユリ、川下公園のライラック、平岡公園のウメなど、テーマ植物を有する公園においては、海外を含めた外部との連携や、高度な知識・経験・技術に基づいた品種の導入・育成・管理等を進め、公園の価値と魅力をいっそう高めることに努めた。

3 公園緑地等におけるスポーツ・余暇活動及び健康の維持増進に関する事業

公園緑地を市民の健康増進の場として位置付け、運動教室や初心者講習会、競技大会などを企画・実施し、利用促進を図った。また、プレーパーク等の外遊び企画を実施した。

(1) 健康づくり及び体力の増進

公園緑地や園内施設が市民の健康維持と体力増進の場となるよう、環境整備を適切に行うとともに、ノルディックウォーキングや歩くスキー等の講習会や、子ども向けのかげっこ教室、各種の運動教室等を企画・開催し、市民の健康づくりを推進した。

(2) プレーパーク等、外遊びの推進

子どもたちの心身の健全な発達と自由な外遊びの場づくりのため、地域や関係団体のほか、札幌市子ども未来局と連携してプレーパーク事業の推進・普及に努めた。また、外あそびに関する取組として、公園あそびを推進するための各種体験講座等を開催した。

(3) スポーツを通じた交流及び競技力の向上

スポーツを通じて市民の交流推進と競技レベルの向上を図るため、パークゴルフ交流大会など、各種の大会、講習会等を企画・開催した。

また、厚別公園では(一社)A-Bank北海道との連携事業として、小中学生を対象とした陸上クラブ・サッカークラブを運営した。このほか、農試公園ではサッカースクール、かけっこスクールを開講した。

各公園施設における取組

大通公園・創成川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

ボランティアや市民と協働で季節毎に北国の魅力・特性を活かした植物管理を行い、歴史的・文化的財産の共有、まちなかのみどりのオアシスとして質の向上に努めるなど、公園の魅力を十分に発揮し、来園者にやすらぎと活気が感じられる公園の管理運営に努めた。令和3年度は東京 2020 オリンピック・パラリンピックのマラソン・競歩会場となり、大通公園西 2 丁目から西 4 丁目までが公園封鎖となった他、それにあわせて西 1 丁目ではアイヌ舞踊イベントが開催された。

新型コロナウイルス感染症対策においては、まん延防止等重点措置（以下、「まん延防止」という。）や緊急事態宣言が発令されたことで園内での大規模イベントは中止となり、予定していた自主事業イベントも中止としたが、市民や観光利用者のために、園内の開花情報等の写真をホームページで適時、発信した。

(1) 市民や観光客への情報発信と「おもてなし」

自主事業として「大通公園インフォメーションセンター＆オフィシャルショップ」（以下、インフォメーションセンター）を運営した。また、「カフェテラス」及び「とうきびワゴン」の運営は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催のため、大通公園西 1 丁目のみで行い、利益の向上と利用者の利便性を図ったが、まん延防止により酒類の提供を控えたため、利用者及び売り上げは伸びなかった。

ホームページでは、タイムリーな開花情報のほか、ボランティアによる公園愛護活動の様子を随時発信し、市民協働による公園管理を広め、参加意欲の向上につなげることができた。

(2) 体験型利用の促進

新型コロナウイルス感染症対策のため、大通公園でのホワイトイルミネーション以外の大型イベントは中止となった。また、自主事業として計画していた以下の参加・体験型イベントも、その多くが中止となった。

■利用促進による自主事業イベントの実施一覧

大通公園	日数	参加者数	創成川公園	日数	参加者数
①バラのポプリ配布	1 日	延べ 100 人	①ライラック写真募集	募集 21 日	延べ 62 人
			②ライラック投稿写真展示	展示 27 日	延べ 62 人
			③医療従事者向けイルミネーション	12 日	延べ 240 人

■感染症拡大防止による自主事業イベント中止一覧

大通公園	創成川公園
①どんぐりクラフト	①まるわかりガイドツアー
②竹馬無料貸出	②こどもボランティア体験 彫刻清掃体験
③プレミアムウィークエンド	③創成川たなばた会
④バラカフェ	④中央区の公園共同企画イベント 4公園ワンデーマーチ
⑤バラフェスタ	⑤創成川ハロウィン
⑥くじらの森遊びの会	⑥創成川まちの灯り スノーキャンドルづくり
⑦夏休みこどもボランティア体験会 バラ花壇管理体験	
⑧中央区の公園共同企画イベント 4公園ワンデーマーチ	
⑨雪と遊ぼう！ ウィンタースポーツフェスティバル	
⑩冬を滑ろう！ソリ山	
⑪冬の大通公園と雪まつりガイド	

2 市民参加・協働等

市民ボランティアに対しては、用具の提供や技術指導などの活動支援を行い、市民協働の推進に努めた。

(1) ボランティア活動の支援

企業・団体の清掃ボランティア活動に対する用具等の貸出しなど、適切なサポートを行った。両公園の登録ボランティアについては、各自での体調管理やマスク着用、アルコール消毒等の新型コロナウイルス感染症対策をとってもらい、市内での感染状況を確認しながら、ソーシャルディスタンスをとって活動を行った。ガイドボランティアに関しては、市民や観光客と対面での対応となり、感染対策が取りにくいいため、令和3年度のガイド活動は中止とし、新規ガイド者の研修やガイド時に必要となる園内樹名板の取付活動を行った。

ボランティア活動では自発的な活動を重視するとともに、専門家の技術指導によるスキルアップ、必要用品類の支給等で、活動の活性化やモチベーションの向上を図った。冬期間は室内での活動となるため、密になりやすく、感染症防止対策が難しいことから、すべて中止とした。

■ボランティア活動一覧（4月～11月）

※創成川ボランティアについて緊急事態宣言中は活動中止

公園名	団体名	活動日数	参加者数	活動内容
大通公園	①大通公園花壇ボランティア	3日	延べ 72 人	春・夏花壇の花苗植え込み
	②花壇維持ボランティア	31日	延べ 225 人	大通公園の花壇維持管理活動
	③NPO 法人シーズネット	20日	延べ 146 人	大通公園の花壇維持管理活動
	④バラ花壇ボランティア	43日	延べ 696 人	西 12 丁目バラ花壇の維持管理
	⑤ガイドボランティア	7日	延べ 41 人	ガイド新人研修・樹名板取付作業
創成川公園	①植物ボランティア	18日	延べ 104 人	ライラック等の植物維持管理
	②お助け隊	16日	延べ 60 人	清掃、除草などの公園維持管理
	③花くらぶ	12日	延べ 52 人	コンテナ花壇の維持管理

(2) 教育機関との協働

例年行っている近隣小学校との連携で、児童による花壇への花苗植込みなどのボランティア体験についても、新型コロナウイルス感染症対策として中止となった。

■感染症拡大防止による教育機関との協働イベントの中止一覧

大通公園	創成川公園
①札幌市立資生館小学校花苗植え込み	-
②札幌市立中央小学校花苗植え込み	

中島公園・豊平川緑地(上流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

札幌市中心部に位置しながらも水や緑が豊かで野鳥なども多く、歴史的建造物や文化施設もあり、さらには文化的イベントが開催されている総合公園であるが、令和2年度同様に令和3年度も当初より新型コロナウイルス感染拡大によって、普及啓発・利用促進事業の多くを中止した。また、夏以降も緊急事態宣言、まん延防止、新型コロナウイルス感染者の増加により、開催を予定していた屋外イベント(Kids ガーデン、探訪ツアー、ゆきあかり in 中島公園など)についても、地域団体や企業、関連団体と連携して開催するイベントは影響が大きいと判断して実施を見合わせた。

(1) 市民にわかりやすい情報提供

新型コロナウイルス感染拡大予防に関して、施設休止の期間などの情報は、看板設置や当公園・緑地の公式ウェブサイトを活用して発信したほか、GW 期間中の利用増に対しては、園内放送設備を使用してソーシャルディスタンスに協力するようアナウンスを実施した。緊急事態宣言解除後もイベントの開催、中止などの情報をホームページや園内掲示板を通じて情報提供に努めた。

(2) 「都心のオアシス」として公園の魅力向上

都心部における貴重な水景観である菖蒲池と鴨々川を有する園内において、良好な景観を楽しんでいただけよう、サクラやアジサイといった季節を彩る花木類の管理に特に配慮した。また、大規模な集客イベントが行われなかったことを好機ととらえ、例年傷みの激しい芝生や樹木の管理に力を入れ、緑地の質の向上に努めた。同時に施設清掃の頻度も増やし、汚損にも迅速に対応することで昨年度よりも平日の利用が増えているにも関わらず苦情が減少したことから公園の質が向上したものと判断する。夏以降は札幌市発注の施設修繕により利用者の安全性を向上することができた。

(3) 歴史ある無形資産の維持・継承への協力体制の確保

「さっぽろ園芸市」「札幌まつり」「ゆきあかり in 中島公園」など長期にわたり中島公園を会場として親しまれてきた催し物の維持・継承を図るため準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。これらの情報はメーリングリストを通して公園内及び周辺の歴史・文化・スポーツ施設や公園内外で活動する市民団体、企業、教育機関などや催事の主催、関係団体と情報共有し、相互協力・支援体制を整えるとともに、公園内の治安・安全性の向上に努め、札幌の文化・歴史を担う無形資産の継承と中島公園のイメージ向上に努めた。

■ 自主事業による開催イベント一覧

中島公園		豊平川緑地(上流地区)	
イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①なかじま桜まつり	中止	パークゴルフ大会	中止
②中島 Kids ガーデン(5月下旬～10月上旬)	中止	ラストコール杯	117 人
③鴨ノス茶会・野点	中止		
④ワンデーマーチ	中止		
⑤ノルディックウォーク体験会	中止		
⑥みどころ探訪ツアー	中止		
⑦青空画廊	60 人		
⑧キャンドルナイト	中止		
⑨野鳥観察会(12月18日(土))	荒天中止		
⑩スノーシューレンタル	124 人		
⑪冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう!	中止		
⑫ゆきあかり in 中島公園	中止		

2 市民参加・協働等

地域との連携を図るためコミュニティ推進協議会を継続し、メーリングリストによる「さっぽろ園芸市」や「札幌まつり」「ゆきあかり」等のイベント開催の情報共有を図った。

9月にはコミュニティ推進協議会メンバーである中島児童会館が開催した地域の市民や子ども主体のイベント「かもくまミニ祭り」に人的協力を行う予定だったが、昨年引き続きイベントが中止となった。また、冬季最大のイベントである「ゆきあかり in 中島公園」は当初、規模縮小での開催を検討していたが1月中旬からの感染再拡大に伴い、準備運営に携わるスタッフや参加者の感染リスクと地域イメージの悪化を考慮し昨年に続き令和3年度も中止とした。

豊平川緑地パークゴルフ場（南7条コース・南大橋コース）では緊急事態宣言、まん延防止により施設の休止があったなかでの開放だったが、運営を中央区パークゴルフ協会に委託することで、新規利用者へのルール説明やマナー啓発、利用者ニーズの把握、コース管理に係るアドバイスなど、サービス向上と利用促進、また、感染予防に努めることができた。

豊平川緑地のバーベキュー利用については、令和3年度も札幌市から感染拡大防止のため自粛の要請があり、民間警備会社や河川管理事務所と情報共有等の協力体制により、利用者に自粛の呼びかけを実施した。

(1) ボランティア活動の支援・協働

令和3年度も「3密」を回避しながらの活動となったが、園内花壇や花木の管理を市民ボランティアと協働で行い、園内花壇の土壌改良や雑草の繁茂が目立つ箇所を再生・植栽し、公園花壇の質の向上を図った。

(2) 近隣教育機関との連携

公園近隣の中島中学校における総合学習への協力として、公園職員が学校に出向し、緑や公園について興味や愛着心の向上を図った。

(3) 市民活動・地域連携による相互の充実

令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のために、協議会、教育関連及び、ボランティア団体等への事務連絡（イベントの中止等）を電子メールに切り替えた。2月に開催予定であった「ゆきあかり」事業も開催についての会合を設けることができず、電子メールでの意見集約・報告とした。

このほかに中島公園内にある豊平館、北海道立文学館の運営協議会に公園職員が委員として参加し、意見交換を行った。

■ 協議会・教育機関・ボランティア団体等との連携による開催イベント・事業一覧

団体名	日数	参加者数	活動内容
フローレスの会	46日	延べ277人	園内花壇・バラ管理等
中島 Kids ガーデン	中止	—	地域の親子参加による野菜等育成体験学習
中島中学校にて講演会	中止	—	中島公園の歴史について講演
中島中学校職場体験	中止	—	花壇管理、清掃補助等
第15回かもくま祭ミニ	中止	—	児童会館との協働子どもイベント
鴨々川清掃活動	中止	—	公園内を流れる河川の清掃
鴨々川いきもの観察会	中止	—	札幌市と協同で実施する生物調査
中島公園彫刻清掃体験	中止	—	園内彫刻の解説と清掃活動
日本庭園・野点	中止	—	地域団体との共催イベント
青空画廊	11日	延べ60人	中島中学校生徒の写生画展示
中島中学校総合学習	中止	—	ロウソク加工、冬イベント「ゆきあかり」補助
山鼻小学校総合学習	中止	—	冬イベント「ゆきあかり」補助
静修高校社会実習	中止	—	冬イベント「ゆきあかり」補助
第15回ゆきあかり in 中島公園	中止	—	中島公園地域連携による冬の風物詩イベント

3 利用料金収入

豊平川緑地パークゴルフ場及び南 22 条野球場は新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言、まん延防止の影響もあり、目標金額には達しなかった。

利用料金収入合計 4,288,220 円（パークゴルフ場南7条コース・南大橋コース及び南22条野球場）

ただ、閉鎖時期もパークゴルフ場コースの維持管理を行っていたため、踏圧による芝生の劣化が少なく、良好な芝を維持することができ、営業開始後は利用者からコースの質について好評であった。その後も定期的な草刈、施肥、灌水等の作業の他、例年問題であったフェアウェイのタンポポの手除草を継続的に行い質の向上に努めた。南22条野球場においても、利用中止期間中は定期的なグラウンド整備を確実に実施し、良好なグラウンドコンディションの維持に努めた。

円山公園

1 普及啓発・利用促進事業等

多種多様な樹木を有する公園の特徴を生かして、木の実や剪定枝等の植物廃材を活用した「ナチュラルリースづくり」を開催した。

冬季には「スノーマウンテン造成及びチューブそり無料貸出」を開催しており、公園の利用促進及び活性化を図った。

スポーツイベントとして、「青空ヨガ教室」を複数回開催し、大変好評を得ており、今後も継続して開催していきたい。

園内ではリスや野鳥などの野生動物への過度な餌付けの影響が懸念されており、この問題への関心・意識の啓発を目的として、専門家や研究者らとともに、野生動物との付き合い方を考える「円山リスの会」を平成 27 年に発足し、市民参加による勉強会として「まるやま野生動物カフェ」を継続的に開催してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染対策が十分に取れないことから、令和3年度は開催を見合わせた。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の一環として、当初計画していた自主事業のうち、「かけっこ教室」「ノルディックウォーキング講習会」「あけびのかごづくり」「円山公園こども夏まつり 2021」「円山公園マルシェ」「円山・大通・創成川・中島 4 公園ワンデーマーチ」「円山公園探訪ツアー」「もくもく工房」「冬の円山公園にスノーキャンドルのあかりを灯そう！ 2022」「まるやまスノーラフティングチューブ」「苔玉づくり」「まるやま野生動物カフェ」を中止とした。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①ちょこっとプレーパーク in 円山公園(27 回)	延べ1,345 人	③ナチュラルリースづくり(5 回)	延べ 49 人
②青空ヨガ(2 回)	延べ 530 人	④スノーマウンテン造成 及びチューブそり無料貸出	-

2 市民参加・協働等

在来植物の保護と外来植物の対策として、北海道自然保護協会と連携し、外来種除去活動を継続して実施しており、ゴボウ 83.0kg、イワミツバ 134.9kg、オオハンゴンソウ 41.9kg、アメリカオニアザミ 5.2kg、ガーリックマスタード 3.2kg を除去した。

さっぽろ冒険遊びの会との共催で、「ちょこっとプレーパーク in 円山公園」を開催し、子どもが自由にのびのびと外遊びできる場を提供した。

花壇管理ボランティアの方々とともに、神宮下園地の花壇の維持管理として、チューリップ球根の掘り取り・植え込み、コスモスの播種・抜き取り、花苗の植え込み・掘り取り、除草作業等を月2回程度、定期的に実施した。

■ボランティア団体による活動一覧

団体名	活動日数	参加者数	活動内容
一般社団法人北海道自然保護協会	10 日	延べ 100 人	外来植物(ゴボウ、イワミツバ、オオハンゴンソウ等)の除去活動
さっぽろ冒険遊びの会	27 日	延べ 117 人	プレーパーク事業の運営
花壇管理ボランティア(個人登録)	11 日	延べ 44 人	神宮下園地の花壇の維持管理

3 利用料金収入

有料施設は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、5月 16 日から7月 11 日、8月 30 日から9月 30 日まで利用休止となったが、適時、必要な維持管理作業を実施し、良好なグラウンド状態の維持に努めることで、有料施設の利用促進を図った。

利用料金収入合計 359,580 円(坂下野球場、自由広場)

百合が原公園

1 普及啓発・利用促進事業等

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、5月3日から7月11日と、8月30日から9月30日まで緑のセンター温室、リートレインの営業を中止したなか、公園内において、ユリをはじめ、チューリップ、ムスカリ、ライラック、バラ、ダリアなどによる公園景観の提供に努めた。

施設再開後は感染防止対策を図り、緑のセンター温室での植物展示会の実施、園芸講習会の参加人数やリートレインの乗車定員の制限を行いながら、来園者の回復に取り組んだ。なお、緑のセンター温室での植物展示会・講習会は、3月までに27回の開催にとどまった。再開以降、事業の開催に当たり、広報専任担当者を配置して的確な情報発信を行い集客につなげた。

このほか、施設再開後、公園を題材としたクイズを出題するオリエンテーリングを10月に開催したが、プレーパーク及びガイドボランティアが対応するお散歩ガイドは中止とした。

■自主事業による展示会・講習会・イベント観覧・参加者数(4月～3月)

- | | |
|---------------|-------------|
| (1) 展示会・講習会 | 延べ 45,081 人 |
| (2) オリエンテーリング | 延べ 332 人 |

2 市民参加・協働等

(1) ボランティア活動の支援(4月～3月)

専属のボランティアコーディネーターを配置し、4つのボランティアグループ、計51名の活動を支援して、公園の魅力アップにつなげた。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ・温室管理ボランティア「ミモザ」 12 人 | ・バラ管理ボランティア「ローズヒップ」 20 人 |
| ・宿根草管理ボランティア「クローバー」 7 人 | ・公園ガイドボランティア「ガイド」 12 人 |
| 合計 74 日 延べ 416 人 | |

(2) 体験学習、実習等の受け入れ

例年、札幌市内の小中学校や近郊の高校などから、環境学習や職業体験、インターンシップの受け入れを行っていたが、令和3年度は多くの学校より中止の連絡を受け、以下1校の受け入れをした。

- ・市立札幌みなみの杜高等支援学校 教育実習 1 人 11月4日～11月10日(5日間)

(3) 生物多様性の普及・啓発

生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として、市民への情報の発信や、連携事業であるオンライン生き物クイズラリー2021に参加した。

3 緑の相談(4月～11月)

市民園芸の普及、支援のため、緑のセンターで冬期を除く週2回(木曜、日曜)、緑の相談業務を行う計画であったが、緑のセンター休館中は相談を休止し、相談件数は424件だった。

4 利用料金収入(4月～3月)

緑のセンター温室及びリートレインの営業再開後は、開花情報やイベントの広報発信を積極的に行った結果、客足は徐々に回復した。

利用料金収入合計 7,920,480 円(緑のセンター温室、世界の庭園、リートレイン)

モエレ沼公園

1 普及啓発・利用促進事業等

新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、イサム・ノグチ作品としてのクオリティを確保し、非常時こそ市民にとって魅力ある公園であり続けられるよう、公園の価値向上ならびに安全で快適な公園利用に向けて事業を展開した(入園者数 737,040 人)。

(1) 市民や観光客にとって魅力ある公園づくりと情報発信

ア 快適で安全な公園利用、イサム・ノグチ作品としてのポテンシャルを生かした持込イベントへの対応

持ち込みの大会等は、コロナウイルス対策により中止となったものも多かったが、コロナウイルス感染者数が落ち着いた夏季からは、全国に繋がるテニス大会やマラソン大会など数件が実施された。また、今回で 9 回目となる「モエレ沼芸術花火 2021」(主催:モエレ沼芸術花火実行委員会)は、感染症対策のため来場者数を 5,000 人に限定して開催した。

施設等の管理では、安全管理、事故防止に加え、感染症リスク軽減の対策を盛り込みつつ、各種イベントへの柔軟な対応・協力を行い、魅力ある公園づくりに努めた。

イ 公園の開放状況の積極的な周知と観光客への魅力発信と誘客

利用者の情報入手媒体として重要である公式ウェブサイトのほか、Facebook や Twitter などによる効果的な情報発信に取り組んだ。令和3年度は特に、感染症対策のため公園の開放状況が短いスパンで変更となったため、Google Map のお知らせ機能なども活用し、周知に努めた。春季はコロナウイルス感染が拡大し広報が難しい状況であったが、7月ごろからは感染状況も落ち着き、各種イベントへの取材のほか、旅行雑誌や各種メディアによる動画撮影、北海道のアートスポット紹介などさまざまな取材に対応して誘客に努めた。

ウ 多くの市民が質の高いアートに触れ合える機会の提供

市民が気軽にアートに触れ合える観覧無料の展覧会のほか、新型コロナウイルス感染対策実施のもと恒例となっているクリスマスコンサートイベントなど、多くの来場者を集め利用促進及び公園の価値向上につながった。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	観覧者数	イベント名	観覧者数
①モエレの1年展	3,155 人	③モエレのホワイトクリスマス 2021	120 人
② Imaginary Landscapes 05 「藤沢レオ:Sculpture of Place 柱の研究」	9,586 人	④ 「AKARI:無重力のパラレル」展	3,257 人

(2) 他団体と連携した誘客活動

北海道内各地の美術館等施設が参加する「アートギャラリー北海道」に加入し、相互の連携により、多様な鑑賞機会の提供や魅力あるイベント、効果的なPR活動などの取組に努めた。

2 市民参加・協働等

市民が公園を活動の場として気軽に利用できるよう、ボランティア団体と協働でイベントを開催したほか、サクラの育成や栽培などフィールドを活用した活動を支援した。

また、周辺町内会や NPO、ボランティア団体をメンバーとした「モエレ沼公園利活用協議会」を開催し、公園の利用状況のほか、各種事業への取組とその成果等を報告して公園運営に対する理解を深めた。

■NPO・ボランティア団体による開催イベント一覧

団体名	参加者数	活動内容
モイレ HIDAMARI	延べ 51 人	クラフト「いろいろスプーン」、親子で楽しむ押し葉アート、秋の公園散策等
NPO モエレ沼公園の活用を考える会	延べ 70 人	みんなで一緒にモエレ秋のコンサート

3 冬期間における公園活用の促進

冬の公園利用促進のため、日常生活や週末レジャーを楽しむ場として、クロスカン트리スキーや冬の散歩コース、ソリ滑り場を設置したほか、スノーシューやソリなど、ウインタースポーツ用品の貸出しを行った。

なお、例年開催している「モエレ山爆走そり大会」はコロナウイルス蔓延防止対策により中止となった。

4 利用料金収入

スポーツ施設及び、ガラスのピラミッド貸室、レンタサイクルは、コロナウイルス対策による約 100 日間の利用休止があり、いずれの施設も利用者は少数にとどまった。

スポーツ施設は9月より全国に繋がる大会利用に限定し再開、10 月からは感染対策のもと一般利用も再開され、秋季は例年並みの収入となった。

ガラスのピラミッドの貸室では、感染対策のため大人数の会合を避ける流れから撮影の需要が伸び、秋季からは人数制限をかけつつ集客イベントも開催された。利用にあたっては多岐にわたる要望など細やかな対応を心がけ、事前の調整を綿密に行ったほか、他の利用者への案内や調整により円滑な施設利用に努めた。

利用料金収入合計 9,083,060 円

(テニスコート、陸上競技場、野球場、コインシャワー、レンタサイクル、野外ステージ、ガラスのピラミッド)

川下公園・北郷公園・豊平川緑地(下流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

川下公園の設立目的である、「ライラックの普及啓発」と「健康増進」を 2 本の柱に利用促進事業を計画し、魅力溢れる公園の管理運営に取り組むこととした。

(1) 公園の特色を生かした公園づくりと普及啓発活動

ア ライラックを生かした公園づくりや情報発信

「第 63 回さっぽろライラックまつり」は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催となり、川下公園会場については、ライラックガイドツアーをオンライン(YouTube)で開催したほか、ライラックの森内に宿根草や一年草でハンギングバスケットを用いた写真スポットなどを設置するなど感染対策を講じ実施したところ利用者からは好評であった。

また、ライラックの森園路のグランドレベルが低くなったことや、砂利等が露出して歩きにくい箇所があるため石粉を敷均し、利用者が観賞しやすい環境づくりに努めたほか、苗木の生育環境を整えるため、養生室・ミスト室などの補修も定期的に行った。

さらに、「日本植物園協会第 38 回第 2 分野（国公立植物園）運営会議」（全国オンライン会議）において、札幌の市木であるライラック普及の取組として、当公園のライラックコレクションの維持管理や普及啓発活動の紹介を行った。

イ 健康増進施設としての活動

温水プールや浴室を備えた全天候型屋内施設リラックスプラザを有する川下公園では受講者の年齢層が高い水中健康教室と骨盤矯正ダイエットヨガ教室については中止したが、小学生を対象としたフリースタイルダンス教室は、感染拡大防止対策の徹底を図った上で、コロナ禍による閉館期間を除き開催した。

また、プール浴室の更衣室において昨年度中はドライヤーの使用制限をしていたが、使用時の水滴・エアロゾル拡散防止パーテーションを新たに設置し、使用制限を解除するなど利用者の利便性を図り営業した。

■自主事業等による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①水中健康教室	中止	⑦白石区ふるさとまつり(共催)	中止
②ヨガ教室	中止	⑧川下公園秋まつり	中止
③フリースタイルダンス教室	294 人	⑨ネイチャークラフト講座	13 人
④さっぽろライラックまつり in 川下公園	中止	⑩川下公園ウインターフェスティバル	中止
⑤ライラックガイドツアー	中止	⑪スノーラフティングボート	550 人
⑥パークゴルフ大会(川下公園PG場)	中止		

(2) コロナ禍による影響と対策

ア コロナ禍におけるリラックスプラザの運営

第 4 波感染拡大により、4/27～5/2 まで開館時間を 9 時から 18 時まで時短営業を行っていたが、その後、ゴールデンウィーク特別対策期間（5/3～5/11）、まん延防止期間（5/9～5/31）、緊急事態宣言期間（5/16～5/31）、緊急事態宣言延長期間（6/1～6/20）、まん延防止期間（6/21～7/11）により、5/3 から 7/11 までの期間中はリラックスプラザを閉館した。

その後、第 5 波感染拡大による緊急事態宣言発令に伴い、8/27～9/30 までの期間中に、再度全館閉鎖対応措置をおこなった。年明け後はオミクロン株による第 6 波感染拡大により、まん延防止期間が 1/27～3/21 まで延長されたが、適用期間中も定期的な換気・消毒、人数制限、利用者への注意喚起など、感染防止対策の徹底を図りながら施設を閉鎖することなく通常どおり施設運営を行った。

イ 感染拡大防止と公園の魅力創出

夏季、来園者で賑わうバーベキュー広場と遊水施設の壁泉は、3 密が避けられないことから昨年度に引き続き閉鎖・休止となったが、カナール(遊水路)と噴水は、7 月 8 月の 2 カ月間稼働した。

コロナ禍により屋外で過ごす公園利用者への魅力訴求・満足度向上を図るため、新たにリラックスプラザテラス前に宿根草花壇を造成したほか、ハンギングバスケットを製作展示するなど、緑景観の充実を図った。

また、寄贈サクラ植樹区域の排水性の向上を図るため、植え替えが可能なものについては植栽柵の嵩上げを行い植え直したほか、エリア内全域にチップを敷き均し、将来に向けての改善を図った。

2 市民参加・協働等

(1) 市民参加のボランティア活動

例年は、ライラックの花がら摘み、挿し木や除草を「川下公園ライラックボランティア りらら」の活動として実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加者に高齢の方が多いことも考慮し、令和3年度は中止とした。

(2) 市民協働の活動

例年近隣中学校の校外学習の場として実施している「白石区でっち奉公」は、昨年度に引き続きコロナ禍により中止となったが、一部の中学校からはパソコンによるリモートでの実施や電話で質疑応答などの依頼があり対応した。

また、例年実施されている白石区ふるさとまつりも、新型コロナウイルス感染拡大防止のため2年連続の中止となった。

3 ライラックの継続的な品種管理

品種保管用のライラックの多くが、ネズミによる食害を受けた。枝先のみ被害を受けたライラックについては切り戻しで対応するなど可能な限り保存ができるように対応した。

次年度以降のライラックまつり開催時において、無料配布するライラックの苗木を育成するため、約 600 ポットの挿し木を行った。

4 利用料金収入

5/3～5/11 までのゴールデンウィーク特別対策期間、5/9～5/31 までのまん延防止期間中は、5/2 までに施設利用予約していた利用者へのみの利用とし、新規の申し込みを受けずに施設を開放していたが(5/3～5/15)、緊急事態宣言期間となった 5/16～7/11 まで有料運動施設は、中体連等一部中止が困難な競技利用を除き、施設を閉鎖した。その後、まん延防止が適用され、施設は通常開放していたが、再度緊急事態宣言が発令されたため、8/27～9/30 までの期間中は施設を閉鎖した。

利用料金については、コロナ禍の影響により、例年に比べ利用件数は減少し、売上額も減少した。

利用料金収入合計 9,653,660 円(対前年度比 90.1%)

(川下公園浴室・プール、川下公園野球場・テニスコート・パークゴルフ場、北郷公園野球場、豊平川緑地下流地区サッカー場)

豊平公園

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平公園緑のセンターは新型コロナウイルス感染拡大による、まん延防止及び緊急事態宣言発令により、5月3日から7月11日まで休館となり、テニスコートも5月16日以降完全利用中止となったが、感染拡大が治まりかけた7月12日から8月29日の期間、テニスコートや緑のセンターは開放した。しかし、8月30日以降、感染者増加とともに緊急事態宣言の再発令もあり9月30日まで再度利用中止となった。これに伴い、計画していた展示会や講習会等も中止とした。また、開館中は、利用者への感染防止対策を継続した。なお、センター年間来館者は78,881人(R2:88,220人)となり、昨年度の来館者より約11%減となった。

(1) 市民緑化の推進を目的としたバラエティに富んだ展示会・講習会の開催

幌市で最も古い緑のセンター(昭和54年3月開所)として、開所当時から様々な展示会を企画・運営し、令和3年度も人気の植物や、古典園芸、植物を題材とした絵画、クラフトの展示会、また、園芸技術、知識、文化の普及を目的とした園芸教室・講座、自然教室、クラフト講習会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため緑のセンターを臨時休館したことや、開館後も連携協力を行っている植物愛好家団体から感染への不安により開催中止を受けたことで、事業の多くが遂行できなかった。なお、実施した展示会や講習会等の開催に際しては密にならないよう、定員を半数にし、感染防止対策を実施して対応した。

イベント名	回数	参加者数	R2 参加者数
展示会(パンジー・ヴィオラ展他) 延べ 86 日間	9 回	延べ 25,734 人	延べ 20,603 人
園芸教室(洋ランの栽培、ロープワーク、鉢花・草花・球根類)	17 回	延べ 167 人	延べ 82 人
園芸講座(バラづくり、宿根草)	4 回	延べ 47 人	延べ 66 人
クラフト講習会(あけびクラフト、ナチュラルリース)	4 回	延べ 55 人	延べ 51 人
コチョウラン植え替えサービス	2 回	延べ 20 人	延べ 18 人
観察会	1 回	延べ 14 人	延べ 12 人

(2) 市民、他施設との共同イベント開催

新型コロナウイルス感染拡大が継続したため、令和3年度は近隣施設や団体等との共催イベントは開催していない。10月以降の緑のセンターや有料施設の通常営業後は、公園が市民コミュニティの場として活用されるよう広報活動に努めた。また、生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として連携事業の「生き物クイズラリー(オンライン)」に参加した。

(3) 緑化情報「緑のセンターだより」の発行

季節の植物や栽培方法などの情報を掲載した「緑のセンターだより」を毎月編集・発行し、約13,000部を札幌市各区役所や近隣まちづくりセンター、公共施設、各公園に無料配布し、公式ウェブサイトでも公開した。

北国の園芸情報を定期発信することと、豊平公園、百合が原公園、平岡樹芸センターの札幌市都市緑化植物園での、旬の開花情報や写真、イベント案内などを掲載し、好評を得ている。

(4) 第38回日本植物園協会第2分野運営会議の開催

札幌市緑化植物園の拠点施設である豊平公園は、他の二つの緑化植物園である百合が原公園と平岡樹芸センターとともに、日本植物園協会に加盟し、その中国・公立植物園で構成される第2分野に所属している。

第2分野には全国で59園が所属しており、令和3年度は札幌がホスト園となって、18園がオンラインで運営会議に参加した。会議ではコロナ禍での植物園の取り組みや今後の集客に向けての意見交換と札幌市緑化植物園の施設紹介を行った。

2 市民参加・協働等

市民による緑化活動の活性化やイベントの充実化を目的として、登録ボランティア団体と公園の花壇や緑地の管理、イベント準備・運営等を協働で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言及びまん延防止期間中は、活動を中止した。なお、活動再開後は、感染防止対策をとって活動している。

・豊平公園花とハーブの会 12日間 延べ107人

屋外花壇・植栽管理、センター内植物管理、花壇・野草園・芝生内除草、リース作製や飾りつけ

3 緑の相談

市民園芸の普及と支援のため、休館日を除く毎日、緑の相談業務を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月1日から9月30日までは前年度より継続して電話相談のみとし、まん延防止解除後の10月1日より対面での相談を再開し、利用者に変え喜ばれた。

・相談件数 電話、対面相談を合わせて13,798件(R2:14,694件)

4 利用料金収入

利用料金収入合計 1,028,400円(R2:1,506,840円) ※テニスコート、講義室

平岡公園・清田南公園

1 普及啓発・利用促進事業等(平岡公園)

梅林の健全な育成と景観の維持・向上のため、積雪寒冷地でのウメ栽培のスキルアップを図り、良好なウメの栽培管理に留意し、清田区ふるさと遺産としての平岡公園梅林の魅力アップに努めた。また、園内の豊かな自然を活用した各種観察会等を開催し、環境教育の場としての利用促進に努めた。

(1) 魅力ある公園づくりと情報発信

ア 札幌の花見の名所としての梅林の魅力発信

新型コロナウイルス拡大防止のため、札幌市の指示により前年に引き続き「梅まつり」を中止としたが、令和3年度は園路規制のうえ梅林を開放した。あわせて梅林外に梅ソフトクリーム・土産販売所を設置し、混雑緩和を図りながらサービスの提供もおこなった。また、ホームページにて、令和3年度のウメ開花状況の写真を掲載し梅林の魅力発信に努めた。

イ 市民協働による環境教育の拠点として、自然と触れ合う機会の提供

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年行っている市民・近隣住民・市民団体・大学等との連携による環境教育の拠点としての役割を果たすことが難しくなり、協力している近隣小学校や大学の環境教育授業などはすべて中止となった。地域ボランティア及び連携大学と協働で行っているイベントも10月に一部を実施するに留まり、新型コロナウイルス対策が困難なイベントは中止とした。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備 考
① 公園ツアー	0回	0人	イベント自粛
② ヘイケボタル観察会	0回	0人	イベント自粛
③ ベースボール体験イベント	1回	52人	
④ 雪のおうちイグルーを作ろう	1回	0人	イベント自粛

■ボランティア団体との協働イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備 考
① ながぐつの土ようび	1回	18人	10月のみ開催、他は自粛
② ツリーウォッチング	1回	0人	10月は天候不良で中止、他は自粛
③ にぎわいフェスタ	0回	0人	イベント自粛

2 市民参加・協働等

(1) 市民の参加・協働による地域の活性化を目指して

地域住民とのコミュニケーションの活性化と公園における市民活動の推進のため、ボランティア活動に意欲のある市民を積極的に受け入れる準備を行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動開始の遅れや活動内容の変更などにより当初計画通りの活動は困難であった。しかしできる限りの支援を行い、市民協働による管理運営を進めた。

■平岡公園の活動ボランティア

活動団体名	活動日数	参加者数	備 考
平岡どんぐりの森	1日	延べ 6人	人工湿地管理・環境イベント等 新型コロナウイルス感染拡大防止でイベント自粛、10月のみ開催
梅ボランティア	—	—	ウメ管理 新型コロナウイルス感染拡大防止で活動自粛
パークゴルフボランティア	120日	延べ 393人	パークゴルフ場管理・利用調整 新型コロナウイルス感染拡大防止のため少人数で活動

■清田南公園の活動ボランティア

活動団体名	活動日数	参加者数	備 考
清田南公園野球場ボランティア	—	—	少年野球場の利用調整 新型コロナウイルス感染拡大防止で活動自粛

(2)平岡公園の利活用や環境保全に関する連携

公園の財産である自然環境を保全し、環境教育等への活用を進めていくため、例年ボランティア団体や大学、研究者等と連携会議を開催しているが、令和3年度はコロナ禍のため会議を行う事ができなかった。

次年度は、経年の懸案事項でもある園路改修の話を進めていきたい。

3 利用料金収入

利用料金収入合計 2,787,760 円(平岡公園テニスコート・野球場、清田南公園テニスコート)

平岡樹芸センター

1 普及啓発・利用促進事業等

2.9 ヘクタールの園内に北国向けの豊富な樹木や日本庭園、西洋庭園を備え、札幌市都市緑化植物園として緑化の啓発並びに家庭園芸の普及を目指すとともに、北国の造園技術、知識の継承を目的とした市民向けの実践型講習会を開催した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大による、まん延防止及び緊急事態宣言発令により、5月3日から7月11日まで管理事務所が休館となり、感染拡大が治まりかけた7月12日から8月29日の期間は再開した。8月30日以降、感染者増加とともに緊急事態宣言の再発令もあり9月30日まで再度休館となった。これに伴い、計画していた園芸・庭作り教室も一部中止とした。なお、令和3年度は4月29日から11月7日まで開園し、管理事務所開館中は利用者への感染防止対策を継続した。また、休館中も、トイレの使用は利用可能とした。

樹芸センター年間来館者は73,722人(R2:73,145人)となり、昨年度の来館者より約580人の増となった。

その他、樹勢が落ちているヤエザクラ並木のルート変更のため、4月の開園前に園内で育成していたサクラ38本の移植を行ったほか、公式ホームページへの開花情報の掲載やメディアの活用により、効果的な利用促進に努めた。

■自主事業による開催イベント一覧

事業名	回数	参加者数	備 考
① 園芸教室	9回	延べ65人	マツ、オンコ、モミジ、果樹等の剪定等
② クラフト教室	1回	延べ9人	あけびと藤つるを使ったつりかご製作
③ オリエンテーリング	2回	延べ263人	春と秋のクイズラリー

2 市民参加・協働等

当園で活動しているボランティア団体である環境サポーターズ「三次郎の会」を適切にサポートすることにより、効率的な植物・樹木の維持管理を実施することができた。

また、ともにボランティア活動している「樹木会」は、新型コロナウイルス感染への自主的な予防対策から、5月より9月までの期間について活動を一時休止した。活動日数及び参加者数については昨年度よりは多かった。

■ボランティア団体の活動状況

団体名	活動日数	参加者数
環境サポーターズ 三次郎の会	29日	延べ192人
樹木会	13日	延べ42人

例年環境サポーターズ「三次郎の会」と協働で開催している「こども夏祭り」「庭園コンサート」「スノーキャンドル」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年度も中止した。

その他、清田区ガーデニングコンテストにおいては清田区の花と緑の活動拠点ネットワークの参加施設として、審査及び表彰式に参加した。

3 緑の相談

市民園芸の普及と支援のため、週2回(水曜、土曜)、緑の相談業務を行っているが、令和3年度は4月29日の開園後、まん延防止及び緊急事態宣言が発令されたため、その期間は休館となり、休館中は電話でのみ相談を受けた。開館時には対面相談を再開したが、相談件数は470件(R2年586件)に留まった。

4 利用料金収入

利用料金収入合計 21,680円(R2年37,010円・講義室)

1 普及啓発・利用促進事業等

コロナ禍の中、公園は身近なオープンスペースとしてその価値と需要がますます高まっており、あらためて安全で快適な公園利用のため、新しい日常に対応したにぎわいづくりの提案と実施に努めた。

維持管理面では、グリーンシーズン前に融雪剤の散布、雪割り作業を進めたこと、また、秋季は天候が安定し降雪も遅かったことなどから、全体として計画どおり管理作業を実施することができた。

夏季は記録的猛暑と少雨によって芝生が衰弱したが、有料施設を中心に連日灌水を行うことによって秋口以降は順調に回復した。また、美しく潤いのある花壇づくりのほか、公園外周を中心に高木剪定を行うなど良好な景観形成と植物の健全な生育管理に意を用いた。

冬季は記録的大雪に対応するため人員を総動員して駐車場や園路の除排雪を進めるとともに、四阿をはじめ施設の雪下ろしなど、公園利用と施設への影響を最小限にとどめることに留意した。

管理運営面では、農試公園は約5年かけての施設改修工事の最中、また、コロナ禍による施設の閉鎖や利用制限の中、美しい草花や樹木、自然環境などに関する情報を提供するとともに、緑化、生物多様性、環境等に関する啓発を行った。また、健康づくりとスポーツを楽しむことができる運動公園としての役割とともに、幼児や児童を連れた家族利用が多いという特徴を捉えた情報発信や利用プログラムの実施により、満足度の高い公園運営と公園の価値向上に努めた。

(1) 施設の利活用・自主事業

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、必要な措置を講じた上で各施設の適正利用とイベントや講習会の開催等に努めた。

ア 有料施設

(ア) 農試公園屋内広場アリーナ

コロナ禍により当初計画328日間で240日の開館であったが、一般的なスポーツ利用のほか、幼稚園や保育園の運動会を誘致するなど、多様な持込みイベントの実施について柔軟に対応・協力した。

(イ) 同野球場

A野球場が改修工事のため通年で利用を中止した。また、B野球場がコロナ禍により延べ3か月間利用を中止したが、グラウンドコンディションの維持・向上に努めるなどして利用促進を図った。

(ウ) 同硬式テニスコート及び軟式テニスコート

改修工事のため5月上旬以降は利用を中止した。それまでは融雪を早めるなどして利用促進を図った。

(エ) 発寒西陵公園硬式テニスコート

融雪を早め、また、適宜、落ち葉清掃を行うなどコンディションの維持・向上に努めて利用促進を図ったが、コロナ禍により5月・6月・9月と断続的に利用を中止した。

イ 無料施設

(ア) 農試公園ちゃぷちゃぷ広場

改修工事のため利用を中止した。

(イ) 同トンカチ広場・自転車貸出・交通コーナー

コロナ禍により、当初計画189日間で84日間の開放であったが、夏休み期間中は特に利用者同士の適正間隔の確保や消毒などに留意して利用促進を図った。

(ウ) 同多目的広場・スキースロープ

毎日の巡視点検により、安全で良好なコンディションの維持に努め、利用促進を図った。

(エ) 歩くスキーコース

毎日の巡視点検を行うとともに、コースカッターによる整備を行うなど冬季利用の促進を図った。

ウ 自主事業

コロナ禍により夏まつりや秋まつり、観察会、講習会など、少なくない事業が中止となったが、次のとおり企画・実施した。

(ア) イベント・講習会

イベント名	開催月	回数	参加者数
①はじめての自転車教室	4月～5月、7月～8月	18回	延べ140人
②園芸教室(寄せ植え・苔テラリウム)	5月	各1回	延べ19人
③ノルディックウォーキング講習会	8月、10月～11月	6回	延べ67人
④タグラグビー体験会	7月	1回	延べ4人
⑤苔玉風鈴づくり	8月	1回	延べ3人
⑥コキアのほうきづくり	11月	1回	延べ12人
⑦クリスマスリースづくり	11月～12月	4回	延べ40人
⑧パークゴルフ初心者講習会	12月	1回	延べ4人
⑨ミニ門松づくり	12月	2回	延べ20人
⑩しめ縄リースづくり	12月	2回	延べ20人
⑪新春干支の凧づくり	1月	1回	延べ18人
⑫歩くスキー講習会	1月～2月	3回	延べ6人
⑬わいわいタイヤチューブ	1月～3月	19回	延べ1,379人
⑭苔玉づくり	3月	1回	延べ6人
⑮ナチュラルリースづくり	3月	2回	延べ7人

(イ) スポーツ教室

教室名	開催日	回数	参加者数
のうしサッカースクール	毎週水曜日	24回	延べ523人
のうしかけっこスクール	毎週月曜日	23回	延べ280人

(2) 広報活動

ア 公式ホームページ

基本的な利用情報と公園の利用促進につながる四季折々の自然、開花情報、イベントや講習会、有料施設の情報など、タイムリーな更新に努めた。

イ 情報紙等の作成・配布

公園のイベント情報を掲載した広報紙「農試公園だより」を市内各施設や近隣町内会等に配布するなど、公園の利用促進に努めた。

ウ その他

広報誌、フリーペーパー等に積極的に情報提供するとともに、スタッフが地域FMラジオ局に出演し、公園の基本情報と魅力、施設や植物の情報を伝えるなど、公園を紹介することにより認知度の向上を図るとともに利用促進のためのPRを行った。

2 市民参加・協働等

(1) 登録ボランティアの活動

カポック(農試公園緑化活動ボランティア)

登録人数:13人

活動日:毎週月曜日

屋内広場サンルームの植物管理や花壇づくりなどについて、スタッフがサポートした。

(2) 地域等との連携

地域を対象とした防災訓練(西区主催)への実施協力

「八軒まちづくり協議会」、「八軒地区青少年育成協議会」への参加 : コロナ禍により活動中止

西区みんなで楽しむマラソン大会 : コロナ禍により中止

西区雪合戦大会(西区主催) : コロナ禍により中止

スノーキャンドルの作成・点灯

(3) 近隣小学校との連携

八軒西小学校の総合学習及び職業体験への対応(花壇及びプランターへの花苗等植え込み)

(4) 関係機関等との連携

交通安全教室 : コロナ禍により中止

西区運動施設利活用協議会 : コロナ禍により活動中止

3 利用料金収入

利用料金収入合計 10,125,260 円

(農試公園屋内広場アリーナ・野球場・硬式及び軟式テニスコート、発寒西陵公園硬式テニスコート)

手稲稲積公園・北発寒公園・前田公園

1 普及啓発・利用促進事業等

雄大な手稲山のすそ野に位置する手稲稲積公園は、「主として運動の用に供することを目的とした」市内で4箇所運動公園の一つで、ていねプールをはじめ、市内最大規模の多面数テニスコートや野球場、パークゴルフ場などの運動施設を備えている。小規模ながら野球場やテニスコート等の有料運動施設を備えた手稲区の地区公園である北発寒公園・前田公園と合わせ、手稲区はもとより市内のスポーツの拠点として、市民の幅広い利用を促進するよう管理運営事業を行っている。

(1) 健康づくりやレクリエーションを通じた交流の場とスポーツの拠点としての価値の向上

公園の緑に囲まれた環境にある有料運動施設を良好な状態に維持管理し、四季を通じた市民の健康づくりや交流の場としての魅力を高めるため、スポーツへの新たな参加機会の提供としてテニス講習会やノルディックウォーキング講習会を企画し、また地域とみどりの交流の場の創出として子どもや主婦層を対象としたクラブ体験や「冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう」等のイベントを企画した。

実施協力団体の意向により中止となったイベントもあったが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら、開催可能なイベントを実施した。

■自主事業による開催イベント・講習会の一覧

月日	名称	参加者数
6/13	①ノルディックウォーキング講習会	中止
6/23, 10/3	②テニス講習会	中止
10/23・ 24・25	③④⑤ 木の実のリース講習会(午前午後／計6回)	46人
2/5	⑥冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう	中止

(2) 有料運動施設の情報発信による利用機会の向上

公式ウェブサイト内に有料運動施設(テニスコート)の利用状況を発信するカレンダーツールを新たに設置し、迅速な情報更新をすることにより、利用者が施設予約の際の日程調整をしやすいう工夫した。

(3) 新たなスポーツの場としての協力

札幌市による手稲区内でのスケートボードパーク構想のため、夜間の騒音調査、スケーターへのヒアリング等の場として手稲稲積公園が対象となり、を活用いただき、また住民説明会開催等の協力を行った。

2 市民参加・協働等

3 公園とも周辺に複数の町内会がある住宅街の中心に位置する公園であることから、特に地域との交流と相互理解、町内会や近隣施設等との連携協力を重視した公園管理運営を行っている。

(1) 市民に親しまれ活用される公園づくり

地域の中で公園の果たす役割を考え、公園の価値を高めていくことを目指し、町内会、まちづくりセンター、幼稚園、学校等の参加により「手稲稲積公園利活用協議会」を継続して開催してきた。昨年度に引き続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催は中止となったが、参加組織のメンバーとは個別に情報交換を行う機会を持ち、公園管理運営に反映させた。

また、手稲稲積公園のパークゴルフ場ではボランティア活動の取組として、同好会団体と協働でコース管理等の活動を実施し、利用者の声を直接聞くことで管理運営のレベルアップを図った。

(2) 地域への貢献と近隣との連携・協働を目指した公園づくり

例年、近隣の小中学校等の教育機関による「体験」や「学び」の場としての公園利用への協力や、地域イベントへの参画・協力など、町内会や関係団体との連携・協働に努め、地域に根ざした公園利用の促進を図ってきた。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、町内会行事と児童会館行事が令和3年度も中止となったが、地域の就労施設による植物ボランティアへのサポート、前田地区青少年育成委員会による公園清掃活動への協力、連合町内会の街路樹植栽花壇の緑化・美化活動への協力等を通し、地域における公園の価値向上に努めた。

また、近隣連合町内会と児童会館、まちづくりセンター等の公共施設、小中学校等の教育機関、警察や消防、病院等とで組織する「稲積安心・安全まちづくり協議会」に当公園管理事務所も加盟しており、同団体による地域の防犯・防災、安心安全な地域づくりへの協力貢献に努めた。

このほか、近隣町内会からの要望により、通勤通学などで園路を通して JR やバスなどの公共交通機関利用者が冬期間でも安全に通行できるよう、降雪状況に応じて園路除雪作業を実施した。

■ 地域との連携等の実績一覧

月日	名称	主旨・内容	実施/中止
5/12～	いなづみ花クラブ(全4回) ※3回はコロナ禍中止	いなづみ児童会館の小学生と、花壇植栽や水やり、手入れ等を通じて植物が成長する喜びや学びを体験する活動	実施
5/15	稲積連合町内会下手稲通・富丘通街路樹植栽花壇造成	稲積連合町内会による下手稲通・富丘通の街路樹植栽樹 34 コマへの花壇造成用の花苗保管、資材提供と技術指導・協力	実施
6/23	稲積小学校3年生花苗植込実習	稲積小学校 3 年生が休養広場花壇にジニアやマリーゴールドなどの1年草の花苗を植える体験実習	実施
6/23～	稲積安心・安全まちづくり協議会	協議会に加盟。総会、役員会は中止。11 月落葉清掃のみ実施	中止
7/24～	前田地区青少年育成委員会による公園清掃活動	7 月以降毎月第 4 土曜日に開催される委員会による公園清掃活動への協力	実施
8/7	前田ふれあいまつりへの協力	前田連合町内会が主催する夏まつりの運営に協力し、体験や売店等の催事出店	中止
9 月～	鉄工団地通街路樹花壇のメンテナンス活動	毎週 1 回実施される就労継続支援施設「ていね・さくら館」によるボランティア活動への協力	実施
10/23	稲積連合町内会下手稲通・富丘通街路樹植栽花壇造成	稲積連合町内会による下手稲通・富丘通の街路樹植栽樹 34 コマへの花壇造成用の資材提供と協力	実施
11/13	稲積安心・安全まちづくり協議会落葉収集ボランティア作業	稲積連合町内会と協働で公園前道路の落葉収集ボランティア作業への協力	実施
11/19	公園利活用協議会	公園周辺地域との意見交換や情報共有を通じて連携・協働を図る場として開催	中止
3/11	いなづみ児童会館連絡協議会	いなづみ児童会館の連絡協議会に参加し、年度の事業報告と次年度事業の検討	中止

3 利用料金収入

一昨年度の稲積公園 12 面テニスコート改修に続き、北発寒公園硬式・軟式テニスコートが全面砂入り人工芝コートへの改修と、前田公園野球場及び駐車場の改修が終了し、令和3年度からの供用開始だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として公園施設の閉鎖措置が実施され、開放期間は 4 月 20 日から 5 月 15 日、7 月 12 日から 8 月 29 日、10 月 1 日から 11 月 20 日までと、全体で 126 日間のための開放となり、大規模大会等が中止となったことから大幅な減収となった。

利用料金収入合計 7,334,160 円(手稲稲積公園テニスコート・野球場、北発寒公園テニスコート・野球場、前田公園野球場)

1 普及啓発・利用促進事業等

前田森林公園では、ポプラ並木やカナルをはじめとした壮大な景観と、ふるさとの森、つどいの森、野鳥の森等公園の過半を占める樹林帯の自然環境の保全に努めた。芝地・草地や野球場・球技場・パークゴルフ場等の有料運動施設の管理においては、特に利用者の安全に留意した維持管理作業を実施した。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、バーベキュー広場は全期間閉鎖した。また、有料運動施設では、緊急事態宣言やまん延防止期間による閉鎖と宣言解除に伴う開放等が複数回あった。利用者への施設状況の連絡や案内、消毒・衛生体制等の感染症対策について、その都度、園内掲示物、ホームページ等を活用して対応した。

(1) 安心・安全な公園づくりとコロナ禍への対応

ア 被害を未然に防ぐ適正な樹木管理と植物リサイクルへの積極的な取り組み

前田森林公園敷地の過半が樹林帯であることから、樹木管理においては枯損木や枯損枝、危険木等の伐木処理について、公園利用者の通行往来や隣地・公園施設への被害が想定される箇所から段階的に実施するとともに、サブマネージャー以上の職員に高所作業車の運転操作に係る技能講習を受講させ、警報級の暴風雨により発生する被害木を安全かつ迅速に処理できる体制づくりに努めた。

令和3年度は高所作業車を利用してテッポウムシによる被害で主幹が空洞化したり、枯損木となったシラカバ林やニセアカシアを中心とした雑木林の剪定・伐木を実施し、来園者の通行の多い主園路の安全安心な環境づくりを行った。

加えて、コロナ禍での有料運動施設閉鎖に伴い発生した労力と時間を植物リサイクルに振り向け、リサイクルヤードの枯損木のチップ化処理や園内で発生した落葉の腐葉土処理等を積極的に進めた。

イ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の対応と情報発信

各公園・緑地での9月末までのイベントはほぼ中止となったため、広報においては公園利用におけるコロナ対策情報発信・共有ツールとしてインターネットを積極的に活用した。10月1日より各有料施設がオープンとなったが、前田森林公園内施設、山口緑地の管理棟、各パークゴルフ場クラブハウスにおいては、アルコールによる定期的な消毒、換気、ソーシャルディスタンス確保のための措置、飲食物提供におけるテイクアウト営業の徹底等の対策を行った。

令和3年度の公式ホームページへのアクセス数は116,351件で昨年比97.3%、公式ツイッターは3月末のフォロワー4,628人で昨年比98.2%となり、いずれも微減となった。

期間	措置	有料運動施設・PG場	その他利便施設	自主事業
5月2日～5月15日		新規受付停止・事前予約当選者のみ使用可(5月15日まで)	感染拡大防止対策に留意しながら、開放・実施	
5月16日～6月20日	緊急事態宣言	閉鎖(利用停止)	窓口・トイレ等の最小限の機能以外は利用不可	中止
6月21日～7月11日	まん延防止対策特別措置区域指定			
8月30日～9月30日	緊急事態宣言			
1月27日～3月21日	まん延防止対策措置	冬期閉鎖	感染拡大防止対策に留意しながら、開放・実施	

(2) 公園の利用促進につながる自主事業と、ボランティアや教育機関との連携

公園の魅力を高め、公園資源を活用して利用促進を図ることを目的としたボランティア団体や教育機関との連携による環境学習やイベントは、コロナ対策のため中止となることが多く、特に前田森林公園のフジの開花期に前田森林公園ボランティア組織と協力して開催する「ふじまつり」や、「トンカチ広場」、「自然観察会」を中止するなど、不本意な結果となった。

冬期間は、コロナ対策をとりながらクラフト系イベントやクロスカントリースキー講習会を開催した。

特に歩くスキーレンタルは、コロナ対策に留意しながら、冬の公園利用の促進と市民の健康づくりの場として多くの利用者に好評であった。

■利用促進事業一覧

利用促進事業	開催時期	回数	参加者数
①カナル春・夏・秋清掃	4月、7月、11月	3回	延べ 68人
②トンカチ広場(5～7月上旬はコロナで中止)	7～8月、10月	5回	延べ 280人
③ふじまつり(中止)	5月	中止	—
④自然観察会(6月・9月中止)	6～12月	4回	延べ 81人
⑤パークゴルフ交流大会(前田森林・中止)	7月	中止	—
⑥クリスマスリース講習会	11月	4回	延べ 21人
⑦ミニ門松づくり講習会	12月	2回	延べ 10人
⑧スノーラフティング	1～3月	21回	延べ 283人
⑨クロスカントリースキー初心者講習会 A・B・C	1月	3回	延べ 71人
⑩歩くスキー簡単初心者講習会	1～2月	5回	延べ 35人
⑪歩くスキーレンタル	1～3月	59日	延べ 1,988人

2 市民参加・協働等

札幌市の公園施設における新型コロナウイルス感染拡大防止対策に沿いつつ、公園への親近感の醸成やさらなる利用・活用を促すことができるよう、ボランティア団体によるイベント開催や公園の資源を活かした活動を支援した。

(1) 公園フィールドでのボランティア活動

前田森林公園で活動するボランティア「前田森林公園凸凹クラブ」と連携して、園内植物の廃材を使った木工が体験できるトンカチ広場や自然観察会を開催した。

また、前田森林公園クリーンボランティアのほか、広報さっぽろで参加を呼び掛け、市民が気軽にボランティア活動に参加できるよう、カナルを中心とした公園の清掃活動を行い、景観の維持に協力・貢献した。

- ・前田森林公園凸凹クラブ 連携による普及事業の開催、公園イベントへの協力など(4～12月)
トンカチ広場 9回(内4回はコロナ対策で中止) 延べ 280人
自然観察会 6回(内2回はコロナ対策で中止) 延べ 81人
- ・市民ボランティアによるカナル清掃 3回 延べ 68人

(2) 教育機関の公園フィールドでの活用(前田森林公園)

近隣の教育機関からの授業・実習の協力依頼を積極的に受け入れた。

- ・北海道科学大学 メディアデザイン学科 27人 1日間
- ・北海道札幌高等養護学校 8人 8日間

3 利用料金収入

令和3年度は5/2～7/11、8/30～9/30の期間はコロナ対策により有料施設が閉鎖となったことによる利用者減が響き、前年度より6,506,795円の減収となった。

利用料金収入合計 13,022,505円 (前田森林公園パークゴルフ場・野球場・球技場、星置公園野球場・テニスコート、明日風公園テニスコート、山口緑地西パークゴルフ場・東パークゴルフ場)

厚別公園

1 普及啓発・利用促進事業等

市民の健康増進及びスポーツの普及振興を図ることを目的として、各種運動教室やスポーツ講習会、トレーニングルームで使用するトレーニング器具の充実を図った。

(1) 各種運動教室の実施

上半期は、「ほぐして！のびる！和みピラティス教室」、「シニアのための代謝アップ体操教室」の2教室をスタート、トータル31教室とした。新型コロナウイルス感染症防止措置を取りながらの開催だったが、広報活動により予想を上回る参加があり、健康増進と施設の有効利用を押し進めることができた。

(2) 厚別アスリートアカデミーの運営

競技者が安心して活動できる環境づくりや、各競技の普及及び発展に貢献しながら、地域の新しいコミュニティの構築や地域振興、さらに参加者の競技力向上のみならず、心の成長も目的とした事業として、厚別アスリートアカデミー（Atsubetsu Athlete Academy）を（一社）A-bank 北海道と連携し継続運営した。事業の運営に当たっては、利用しやすい料金への改定や無料体験会を開くなどの活動に努め会員増加を図った。

(3) スポーツ講習会等の実施

コロナ禍の中でも気軽にスポーツにふれあう機会を提供するため、対策を講じつつスポーツ関連の教室を実施した。

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| ・シニアのためのトレーニング講習会 10名 | ・陸上選手のためのウエイトトレーニング考察 3名 |
| ・屋外投てきフィールド 141名 | ・スプリント塾 10名 |

2 市民参加・協働等

(1) 「厚別フラワーボランティア」など、市民参加・協働の機会を設け、地域の方々の積極的な公園の利活用に努めた。

- ・厚別フラワーボランティア 7日
- ・ラブアース・クリーン・アップ in 北海道 5名

(2) 小学生を対象とした札幌市の事業「ウインタースポーツ塾」の実施に当たり、コンソーシアム団体である（一財）札幌市スポーツ協会と協力して設営準備等を行い、冬季の競技場利活用に寄与した。

また、厚別区の「新さっぽろ冬まつり」の企画会議に参加し、広報やイベント実施に協力した。

- ・ウインタースポーツ塾 80名

3 自主財源による利益還元

令和3年度は、（一財）札幌陸上競技協会と協議し、円滑に大会運営が行えるよう、多くの陸上備品や備品整理棚を購入した。

4 利用料金収入

利用料金収入合計 18,027,623円（主競技場、補助競技場、トレーニングルーム、会議室、貸し備品）

西岡公園・西岡中央公園

1 普及啓発・利用促進事業等

西岡公園を「水と緑に恵まれた多様な生物の生育・生息地」「環境学習の活動拠点」として、西岡中央公園を「多様な利用のできる地域の公園」として位置付け、地域や市民、専門家、ボランティア団体との連携・協働による事業展開に努めた。

(1)リアルタイムな自然情報の発信

西岡公園管理事務所の展示室では、令和3年度の新型コロナウイルスの緊急事態宣言等により5月3日から7月11日及び、8月27日から9月30日まで受付とトイレのみ開放としたため、紹介展示は行わなかったが、公園内の自然情報については設置したホワイトボードや公式ウェブサイトにて常時発信を続けた。

緊急事態宣言期間以外については、スタッフが制作した公園で見られるハリオアマツバメやヤドリギ等の生物の紹介展示などを季節毎に提供したほか、園内の最新自然情報を掲示板等により発信するなど、自然に親しむ目的で来園した市民のニーズに的確に対応した。季節に合わせてヒグマ、秋に見られる落ち葉や冬芽、カラ類等の紹介展示の他、冬期も西岡公園の水辺に生息するヌマチチブ、トミヨなどの淡水魚の生体展示を継続して行うなど、自然への理解や関心を深めるきっかけを提供できた。また、公式ウェブサイトでも最新の自然情報等を発信し、自然観察等の公園の利用促進に努めた。

(2)自然や生物に関する講座・観察会等の開催

緊急事態宣言に伴い、5月上旬から7月上旬、8月下旬から9月いっぱいまでに予定していたイベントを中止とした。宣言解除期間については、西岡公園の植物や野鳥など自然の見どころや公園の歴史を散策しながら解説する、おさんぽガイドを定員ありの予約制とし、新北海道スタイルに合わせたガイドの仕方についてガイドボランティアと勉強会を行った上で開催した。工作イベントについては部屋内を十分換気するとともに、参加者やスタッフが密にならないよう工夫をしながら実施した。特定外来生物の防除活動としてのオオハンゴンソウの駆除はボランティアと協働で実施し、勢力拡大の防止、自然環境の保全に努めた。

(3)子どもの外遊びの推進

西岡公園の豊かな自然環境を生かし、子どもたちが自由な発想で遊びをつくる場として、西岡公園で活動するボランティア団体「遊木森森」と連携し、季節に応じて子どもが生み出す遊びをサポートした。10月には新型コロナウイルス感染対策・時間短縮等を講じて西岡プレーパークを開催し、41名の参加があった。この他、未就学児童とその保護者を対象として平日に10回開催した「ちょこっとプレーパーク」には計239名の参加があり、平日に遊べる場や保護者同士のつながりの場を提供することができた。

2 市民参加・協働等

(1)西岡公園におけるボランティア団体の活動とサポート

西岡公園では6つのボランティア団体が活動し、各団体の活動目的は木工工作、植物調査、公園ガイド、プレーパーク運営、花壇管理、ヤンマ団・さかな組の活動の指導・サポートと多岐にわたっている。各団体との間に構築された良好な関係を維持するため、継続して活動しやすい環境づくりに努め、令和3年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策・時間短縮等を行いつつ、活動や様々なイベントを協働体制で開催した。

ボランティア3団体の協力により、新北海道スタイルに取り組みつつ、プレーパークや自然観察、木工クラブなどを開催し、参加者に公園と自然の魅力を提供することができた。外遊びや外でのイベントに関しては、新型コロナウイルス感染対策・時間短縮、定員の設定、室内企画の中止等のほか、積極的な広報も自粛して開催した。

なお、緊急事態宣言を受けて、宣言期間中に開催を予定していたおさんぽガイド、ヤンマ団・さかな組、子りす工房、ちょこっとプレーパーク、にしおかピクニックは中止となった。

冬のスノーキャンドルイベントについては例年参加者と一緒に制作していたが、作業についてはスタッフのみで行い、点灯時のみ一般の参加者を募るなどの対策を行い実施した。

■ボランティア団体との協働によるイベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①おさんぽガイド	81人	②ちょこっとプレーパーク	239人
③にしおかで雪あそびとスノーキャンドルの日	45人	④子りす工房	46人

(2) 西岡中央公園における地域ボランティアとの協働

緊急事態宣言による有料・無料施設の閉鎖に伴い、多目的広場は 7 月 12 日から、パークゴルフ場は 7 月 14 日からのオープンとなったが、春先から新型コロナウイルス感染対策を行いつつパークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う 2 団体が活動し、協働でオープン準備や園内施設の維持管理を実施したほか、オープン後も新北海道スタイルを守りながら維持管理等を行った。また、利用者の意見・要望等を聴取し、管理や活動に役立てるよう努めた。

3 環境教育・自然環境の保全・調査

西岡公園の多様な水辺の生きものを対象とする「西岡さかな組」と、一湖沼におけるトンボの種数が北海道で一番多いとされる西岡公園でのトンボを対象とした「西岡ヤンマ団」について、子どもたちによる 1 年間の調査活動参加者を募集し、それぞれ調査の実施から成果を公開する活動報告展・展示解説までを年間プログラムとして設定して活動した。令和3年度は 4 月から 5 月までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため野外活動のみとし、時間を短縮して活動を行った。6 月、9 月については緊急事態宣言に伴い活動を中止した。外での活動時は 3 密を回避、施設内では換気を行い活動した。

活動報告展について令和3年度は 3 会場とも実施したが、例年行っている団員による会場設営や展示解説は中止した。

これらの活動は、専門家や子ども達の保護者、西岡さかな組と西岡ヤンマ団を卒業した中高生がボランティアスタッフとして指導や運営のサポートに関わることで、環境教育活動の促進や、環境保全の啓発等につなげることができた。

■西岡さかな組・ヤンマ団の活動

団体名	活動日数	参加者数	活動内容
西岡さかな組	8 日	延べ 57 人	水生生物の調査
西岡ヤンマ団	7 日	延べ 60 人	トンボの調査、標本作り

4 利用料金収入

令和3年度は例年と同時期の 4 月 24 日からの利用開放となったが、5 月 16 日から 7 月 11 日及び 8 月 27 日から 9 月 30 日の間の緊急事態宣言中は利用中止とした。

利用状況に合わせた点検清掃を行うなど、利用促進に努めた他、好天にも恵まれ 7 月、11 月は若干利用が増えたが、利用中止期間の影響もあり、全体的には 2 割程度の減収となった。

利用料金収入 481,280 円

(参考 前年 581,760 円(西岡中央公園テニスコート))

札幌市豊平川さけ科学館

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平川や琴似発寒川、星置川などの身近な川に遡上・産卵するサケをより多くの市民に見ていただくため、観察会の実施やインターネットによる観察情報の発信、河川でのサケ観察につながる展示解説を館内で実施し、豊かな自然体験が市民の心の財産となるよう、普及啓発に努めた。また、市内に生息する水辺の生き物の展示などにより、サケに限らない生物多様性の保全につながる教育普及活動にも積極的に取り組んだ。

(1) 市民にとって魅力あるさけ科学館づくり

ア 楽しく見学し、学べるさけ科学館

サケや市内に生息する水辺の生き物等を、子どもでも楽しく学べるように、親しみやすいキャラクターを活用し、分かりやすく伝える展示物の作製や解説を行った。また、サケ親魚・受精卵・発眼卵・稚魚をより多くの市民に見ていただけるよう、それぞれの展示期間の調整に努めた。入館者数は、新型コロナウイルスの影響で5月3日から7月11日及び8月27日から9月30日の間、臨時休館があり、前年度比85.9%の28,287人となった。個人・団体入館者が減少しているが、3月に入りまん延防止が解除されたことにより、団体予約の申込みは市内及び近郊の利用者が徐々に増加した。

イ サケの魅力を生かしたイベント・学習の実施・情報発信

5月・6月中に予定していたイベント「サケ稚魚体験放流」等については、新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館に伴い、全て中止とした。7月・8月に予定していたイベントは、新型コロナウイルス対策を講じて、予定通り実施した。9月の大きな集客イベントである「サケフェスタ」は新型コロナ感染拡大防止のため中止し、その代わりとして「サケとふれあうミニイベント」を小規模で開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館に伴い中止となった。

サケ学習の指導・協力としては、東白石小学校や東橋小学校等に対して、サケの遡上観察、人工受精の学習をサポートした。

ウ その他の教育普及イベントの実施

サケや水辺の生き物に興味を持っていただくために、来館者が事前の申込みなしで気軽に参加できるものから、じっくりと学ぶことのできる実習まで、多様なニーズに対応した各種体験イベントを、新型コロナウイルス感染防止対策を施して、3密にならないよう気をつけて企画・実施した。

■体験イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
サケたちのエサやり体験(5回)	延べ 314 人	琴似発寒川サケ観察会(2回)	延べ 422 人
琴似発寒川さかなウォッチング	延べ 22 人	星置川サーモンウォッチング	延べ 13 人
真駒内川さかなウォッチング	延べ 18 人	豊平川サーモンウォッチング	延べ 15 人
星置川さかなウォッチング	延べ 12 人	サケの採卵実習	延べ 20 人
公開さかな調査	延べ 103 人	サケの人工授精体験(3回)	延べ 251 人
サケタッチプール(5回)	延べ 812 人	サケ皮工作	延べ 17 人

(2) 他団体と連携した活動

ア 地域連携を軸とした、開かれた施設管理と活動の推進

水辺環境の情報を広く発信するため、地域住民・団体・大学・行政及び研究機関との連携を進め、運営の活性化に努めた。また、相手先の団体等が実施するイベント・講座等にもできる限り協力するように努めた。

実習やイベント、飼育、調査などをサポートする「さけ科学館ボランティアの会」は35年の歴史を有し、現在も学生等にとっては社会勉強の場として、一般市民には生涯学習や地域社会への参加の場として、有意義な活動を継続して行っている。

イ 市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携した、豊平川の野生サケ保全活動への取組

過去の調査により、約7割の個体が自然産卵由来の「野生サケ」であることが判明した豊平川において、市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携して、野生サケの優先的保全に継続して取り組んだ。サケ稚魚の放流数をいったん減らし、野生魚と放流魚(耳石温度標識を施標)の割合を継続的にモニタリングして順応的に管理する手法を導入し、調査を継続している。

2 調査・研究等

(1) サケ遡上親魚の捕獲・産卵状況調査

サケの遡上状況の確認のため、一部のサケ親魚を網等で捕獲し、体長・年齢などを記録した。また、河川での産卵状況も併せて調査し、産卵箇所の数からサケの遡上数を推定した。調査と並行して、産卵場所・周辺の状況を巡視確認し、豊平川やその他市内河川でのサケ産卵環境の把握に努めた。

調査の結果は、サケの観察情報としてホームページや館内掲示等で随時公開したほか、河川内の工事に先だって、サケへの影響に配慮した工法・期間等を検討する際の基礎資料としても活用された。

■サケ遡上・産卵状況調査の結果

河川	産卵数	推定遡上数	河川	産卵数	推定遡上数
豊平川	577 箇所	1,154 尾	星置川	2 箇所	4 尾
琴似発寒川	135 箇所	270 尾			

(2) 札幌の水生生物等の生息状況調査

札幌市内・周辺の水辺において、生物の生息状況の調査を継続的に実施した。調査にあたっては、地域住民や活動団体、他分野の研究者などと積極的に連携し、また、水辺を含む広い視点での環境の把握に努めた。

30 地点で調査を実施し、計 29 種の魚類・甲殻類を確認した。開館当初から 36 年以上に及ぶ調査の結果は随時整理・公開し、札幌の水辺における生物多様性保全に向けた基礎資料として活用した。

4 月 8 日及び 6 月 5 日に、「両爬の生態系をかんガエル札幌市南区チーム(かんガエル)」による国内外来種「アズマヒキガエル」の防除作業に協力し、情報を共有した。

7 月 14.15 日、8 月 5.6 日、10 月 13 日に、札幌市環境局環境都市推進部環境管理担当課及び北海道大学地域科学研究室による豊平川石山大橋付近及び厚別川ふれあいの森付近の生物相調査及び特定外来生物の「ウチダザリガニ」調査に協力し、情報を共有した。

(3) 大学・研究機関・行政等の調査・研究等への協力

大学や研究機関・行政等からの調査・実習等への協力、調査記録の提供等、計 40 件の依頼があった。これらに対して積極的に対応し、また、研究等の成果をさけ科学館の教育普及に活用した。

主な協力先:札幌市(水道局、下水道河川局河川事業課、環境局環境共生担当課、円山動物園)、札幌河川事務所、下水道科学館、北海道大学、東海大学等

月寒公園・吉田川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

再整備工事終了後の月寒公園は、大型遊具や貸ボート、水のあそび場等充実した施設が人気となり、園内が混雑する状況が続いているが、安心安全な場の提供と、多様な公園活動、市民協働の推進に重点を置いて、管理運営に取り組んだ。

(1) 幼児向けイベントの開催

月寒公園では、未就学児親子を対象としたイベントのニーズが高いことから、パークライフセンター前で平日に開催するプレーパーク等、幼児向けのイベントを充実させた。定例で開催するプレーパークはリピーターも多く、子どもたちの外あそびの場としてだけでなく、子育て世代の交流の場としても定着している。

また冬季間は、公園の木の実や剪定枝を活用したクラフト体験を、パークライフセンターの一角で定期的で開催した。「バードコール」や「クリスマスリース」など月ごとに変わる企画は、利用者の目にも新しく、多様な公園の楽しみ方を提案できた。

(2) 多様なイベントの開催

月寒公園の再整備のコンセプトである「パークライフ」に基づき、様々な市民団体と連携して、つながりから生まれる多様な公園活動を推進した。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数	参加者数
① おやこでわくわく月さむぼ〜うたとえほんともりあそび	3回	15人
② つきさむパークヨガ	3回	12人
③ クラフト体験	17回	144人
④ 月寒公園ピクニック	1回	1,403人
⑤ 親子でまき割り体験	1回	12人
⑥ 野の花を植えよう	1回	13人
⑦ あそンドル！〜つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル	1回	463人
⑧ つきさむこうえんであそぼうかあい(プレーパーク)	26回	411人
⑨ パークライフカフェキタキツネ	1回	16人

(3) 北海道大学と連携したキツネ対策と普及啓発活動

昨年度よりキツネの研究者である池田貴子特任講師(北海道大学高等教育推進機構 CoSTEP)と、キツネの生態調査に取り組んでおり、令和3年度はエキノコックス症対策として、エキノコックス駆虫薬入りベイト(以下ベイト)の散布を開始した。

また普及啓発活動として、10月に開催した月寒公園ピクニックでは、北海道大学によるキツネの情報提供とキツネの調査体験を行い、3月には「パークライフカフェキタキツネ」を開催し、キツネの生態調査やベイト散布の報告を行った。

広報物としては、キツネやエキノコックス症に関する情報をA5サイズの紙にまとめた「セルフガイド」の無料配布や、動画「コンだけわかればいいっしょ！キツネとのつきあいかた」をYouTubeで配信するなど、キツネやエキノコックス症に関する正しい知識や情報の提供に努めた。

(4) スケートボードへの取組

東京オリンピックの影響もあり、月寒公園ではスケートボードの利用者が増加し、迷惑行為や騒音等の問題が発生したが、禁止看板の設置や日常的な声掛けの他、豊平警察署と合同で夜間パトロールを定期的に実施し、マナー啓発に取り組んだ。また、豊平区土木センターや関連機関と連携し、今後の対策について検討した。

2 市民参加・協働等

(1)月寒公園市民協議会(月寒公園ファンクラブ)との連携

再整備を検討する中で市民により設立された月寒公園ファンクラブと共催で、「月寒公園ピクニック」(10 月)と「あそन्दル! ~つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル」(1 月)を開催した。新型コロナウイルスの感染対策を取りながら、規模を縮小して開催したが、新しい公園の楽しみ方を提案する場として、地域交流の有意義な機会となった。

■月寒公園ファンクラブとの共催事業一覧

イベント名	活動内容
①月寒公園ピクニック	近隣高校の部活動等が演奏を披露する屋外コンサートや、北海道大学によるキツネの情報提供、月寒公園ファンクラブによるプレーパーク等のイベントを実施した。
②あそन्दル! ~つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル	スノーキャンドルづくりと点灯、雪あそびやイグルーづくりなどを楽しむプレーパークを実施した。

(2)ボランティアとの連携

月寒公園では 3 団体が活動しており、特に月寒公園ボランティア会は、花壇の管理やシバザクラエリアの除草、イベントのサポート等、精力的に活動した。吉田川公園では、パークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う 2 団体が活動し、市民協働による維持管理を進めた。

■ボランティア団体による活動一覧

団体名	登録人数	活動内容
月寒公園ボランティア会	15 人	シバザクラエリアの除草、花壇の管理、イベントのサポート
月寒プレーパークの会	8 人	プレーパークの開催
コネクトワークス豊平	20 人	就労支援施設によるゴミ拾い
東月寒レオンズ (吉田川公園多目的広場ボランティア)	3 人	多目的広場の管理運営
吉田川公園パークゴルフ振興会	6 人	パークゴルフ場の管理運営

3 利用料金収入

利用料金収入合計 4,734,890 円

(月寒公園野球場(坂下・高台)・テニスコート・パークゴルフ場・貸ボート、吉田川公園テニスコート)

旭山記念公園

1 普及啓発・利用促進事業等

札幌市街地を一望できる眺望と、札幌市内でありながら豊かな自然環境がある当該公園を活かし、多様な環境教育事業を企画し、市民団体や近隣教育機関等と協働で実施した。また、公式ウェブサイト等によるタイムリーな野鳥等の自然情報を発信し、公園の利用促進、環境教育、みどりの普及啓発に取り組み、公園の魅力向上に努めた。ヒグマ出没に伴う公園の全面閉鎖または、部分閉鎖とともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部自主事業を中止せざるを得なかった。ヒグマ出没以降は、当該公園及び藻岩山での出没情報、注意喚起の他、生態の紹介等の看板を各所に設置し、ヒグマへの知識や対策についての普及啓発に努めた。

(1) 自然豊かな環境を生かした環境教育の場の提供

市街地に近い場所にありながら、気軽に豊かな自然が楽しめる環境であることから、森林浴やバードウォッチング等で近隣や市内から多くの方に利用された。ヒグマ出没による全面閉鎖及び部分閉鎖の期間を除き、野鳥観察会を継続して実施し、多くの野鳥観察利用者に豊かな自然環境を紹介することができた。また活動をサポートする市民団体「旭山自然調査隊」が主催する自然調査体験プログラム「森のたんけん隊」では、野生生物の調査を専門に行う「EnVision 環境保全事務所」から講師を招き、森の家でヒグマについての講習を行い、ヒグマに関する理解を深める場を提供することができた。

(2) 生物多様性を保全する活動の推進

近隣小学校の依頼で、当該公園の歴史や自然環境を調査して学校新聞を作成する総合学習「旭山ウォーカー」に協力した。身近な公園を通して豊かな自然環境等を学ぶ内容で実施し、環境保全の意識啓発を図ることができた。また「旭山自然調査隊」が主催する自然調査体験プログラム「森のたんけん隊」の活動をサポートした。当該公園で見られる様々な生きもの観察とエコスタック(生きものすみか)作りを行ったほか、一昨年から巨木の谷で「里山作り」をテーマに、外来種のニセアカシアの伐採や在来種のイタヤカエデなどの植樹を行っており、新たに樹名板や活動を紹介する看板作り等を行うことで、生物多様性を保全するための活動の推進と啓発に取り組んだ。

(3) 公園の特徴を生かした広報活動

公式ウェブサイトでは野鳥等の自然情報、施設情報、環境教育事業等のイベントの告知・活動報告等の情報について 155 件更新し、閲覧回数は 262,460 件だった。閲覧回数は年々増加傾向にあり、昨年度実績比は約 184%で、2 倍近い増加となった。このことから、野鳥等の自然観察に適する当該公園が広く認知され、情報源として利活用されたこと、並びにヒグマ出没等の情報を求める方が多かったことが推測される。

(4) 社会福祉への貢献

令和 3 年度から新規の福祉団体にレストハウスの管理運営を委託し、障がい者の自立に向けたサポートを行った。レストハウスは、ヒグマ出没に伴う公園閉鎖時は臨時休館し、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うまん延防止及び緊急事態宣言発令時は、窓口とトイレのみの利用に制限する等、札幌市の指示に即して営業を行った。ヒグマ出没後は札幌市発行のヒグマに関するパンフレットの配架や福祉団体が製作したクマ鈴の販売を行うなど、来園者へのヒグマ啓発や安全確保に努めた。

■普及啓発・利用促進イベント一覧

イベント名	参加者数	活動内容
野鳥観察会(15回)16回分中止※	208人	旭山記念公園を散策しながら野鳥のガイドを行う。
カルチャーナイト 2021	200人	Youtube「カルチャーナイト公式チャンネル」にて、旭山記念公園及び旭山都市環境林で観察できる生きものを動画で紹介。 参加者数は動画再生回数の概算
クリスマスリース作製体験	6人	旭山記念公園で採取した自然素材などを使って、クリスマスリースを作成する。
スノーシュー自然観察会	67人	冬期間、スノーシューを履いて旭山記念公園及び旭山都市環境林を散策し、職員が自然をガイドする。
冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう 2022	6人	自然災害被災者への鎮魂等を目的に、雪でランタンを作成し、自作のキャンドルを設置して灯す。

※ ヒグマ出没に伴う閉鎖及び部分閉鎖、または新型コロナウイルス感染症拡大防止による。

2 市民参加・協働等

当該公園を拠点に自然環境プログラム等の活動を展開する市民団体「旭山記念公園市民活動協議会」及びその登録団体と密接に連携し、近隣小学校との連携事業「旭山ウォーカー」を共催、「旭山自然調査隊」が主催する「森のたんけん隊」等の環境教育事業の活動をサポートすることで、利用促進と環境保全の啓発に努めた。例年共催・協力しているイベント「WONDER FOREST IN さっぽろ」「旭山森のフェスティバル」、「星空観察会」「旭山冬のフェスティバル」は、ヒグマ出没に伴う閉鎖及び部分閉鎖、または新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。森の家の利用については、感染症対策を徹底しながら、札幌まるやま自然学校等による自然学習・遊びの拠点として利活用された。

■市民協議会との共催事業一覧

イベント名	参加者数	活動内容
①緑丘小学校連携事業「旭山ウォーカー」	延べ 150 人	近隣の緑丘小学校4年生の総合学習授業に協力する。(当該公園の歴史や自然などについての講演、現地学習の協力)
②旭山森のフェスティバル	ヒグマ出没に伴う閉鎖及び部分閉鎖、または新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。	
③WONDER FOREST IN さっぽろ		
④星空観察会		
⑤旭山冬のフェスティバル		

3 その他

札幌市内においてヒグマ出没が相次ぐ中、当該公園でも3回出没(7/9、7/23、10/6)が確認され、その都度2週間程度の全面閉鎖を行った。閉鎖解除後は、ヒグマ生息域の藻岩山や旭山都市環境林に隣接する散策路側について、防護ネット等による立入禁止措置を行い、来園者の安全確保に努めた。また園内では掲示物等によりヒグマの生態や対応に関する看板を設置し、注意喚起と対策の普及啓発に努めた。

他 1 国営公園等受託事業

滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務を受託する共同体の代表団体として、公園・園内施設の利用対応、イベント等の企画・実施のほか、管理計画に従い植物・園内施設等の維持管理業務を実施した。

1 滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の総轄

- (1) 園内の総務・経理事務
- (2) 入園料の徴収事務
- (3) 植物管理・施設管理・園内及び建物清掃
- (4) ヒグマ対策 園内侵入防止対応、外周柵監視、巡回点検等
- (5) 入園者数 年間 225,832 人(国の示す目標値 542,000 人の 41.7%)

※新型コロナウイルス緊急事態宣言及びまん延防止の運用に基づく臨時閉園が延べ90日間となった。
また、開園時も新型コロナ感染防止対策に基づき施設利用やイベントを制限せざるを得ず、さらに冬季はシーズン当初の少雪による提供アクティビティの減少、その後の度重なる大雪による交通障害などの影響もあったことから目標値を大幅に下回った。

2 利用指導及び利用サービス等

(1) 利用促進事業

すずらんメール：夏号及び冬号として1月と2月の2回、計3回発行(当初は季節ごと全4回予定)
※新型コロナの影響、及び感染防止対策のため、春号及び秋号は発行中止
イベントチラシ(新聞折込広告)：5月実施から1月に変更 ※新型コロナによる臨時閉園のため
札幌市営地下鉄中吊り広告：秋、冬の2回実施(10月18日～10月24日、1月31日～2月6日)
映画「呪術廻戦」公開前広告での公園PR実施 12月24日～1月20日
札幌市内スキー場連携テレビCM実施(HBC・UHB)12月～2月
第2回米そり選手権参加者募集告知CM(UHB)1月11日～1月31日

(2) ボランティア活動

① フラワーガイドボランティア 登録28名(延べ243名)、活動77日間

グリーンシーズンの活動は新型コロナ感染拡大の影響により6月21日からの開始となった。その後8月28日から9月30日まで再度臨時閉園となったため、春のチューリップ、秋のコスモスについては来園者へのガイドが全くできない状況であった。ガーデンツアーは参加者多数となるおそれがあるため昨年度に引き続き中止し、感染防止対策実施の上で、ガーデン等の見どころで来園者へのスポット解説を実施した。

② 滝野の森クラブ 登録53名(延べ1,240名)、活動148日間

コロナ禍ではあったが感染防止対策ができる範囲で各種活動を行った。夏季はおさんぼガイドや森あそび、生きもの探しなどのイベントのほか、滝野の歴史の調査や植物調査、標本展示等を開催した。また自生種保全のための森づくり活動なども行った。秋には滝野のヒグマ対策について学ぶ勉強会を実施した。

冬季も引き続き感染防止対策をしながらスノーシューツアーや雪あそびなどのイベントを実施し、2月には「たきの森フェス」でたき火を使った体験プログラムを行った。

(3) 主なイベント

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| ① きのだんの大冒険 | 4月29日～5月16日 5月17日以降臨時閉園のため中止 |
| ② ASOBI フェス | 5月4日、5月5日 |
| ③ シラネアオイと春の野の花まつり | 5月8日～5月16日 5月17日以降臨時閉園のため中止 |
| ④ 滝野の森“野外”昆虫博物館 | 7月31日～8月15日 |
| ⑤ DRIVE IN HANABI | 8月22日 |
| ⑥ たきの de お正月 パーティー | 1月2日、1月3日 |

- ⑦ たきのスノーフェスティバル 2月5日、2月6日
- ⑧ 第2回北海道米そり選手権 2月11日
- ⑨ 滝野公園歩くスキー大会 2月23日
- ⑩ たきの森フェス～2021winter～ 2月27日

※ 以下のイベント等は中止（新型コロナの影響による臨時閉園や感染防止対策のため）

チューリップ・すずらんフェスタ（5月中旬～6月上旬）

滝野アウトドアイベント（5月22日、5月23日）

たきの森フェス～2021Summer～（7月11日）

コスモスフェスタ（9月中旬～10月上旬）

チャレンジフェスティバル2021（9月25日、9月26日）

収 1 公園施設等附帯収益事業

公園緑地・施設利用者の利便性と市民サービスの向上及び継続的な公益目的事業の展開とその充実に資するため、公園緑地・施設内における便益施設の運営等を行った。

1 常設売店の運営

公園施設等で売店施設を運営し、オリジナル商品の販売や、公園緑地の多目的利用をサポートする備品の貸出等を行った。また、百合が原公園、豊平公園、川下公園等では、札幌市の気候条件と季節に合った鉢花や、植物等に関する書籍、園芸用品等を販売した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、手稲稲積公園、前田森林公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、オンライン・ショップ

(2) 商品

鉢花等植物、園芸用品、オリジナルグッズ、スポーツ用品、用具レンタル（スポーツ用品、照明器具、音響設備、楽器）等

(3) 収入金額

17,623,378 円

2 臨時売店の設置運営

売店施設のない公園緑地及びイベント開催時等に臨時売店を設置し、営業した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、前田公園、前田森林公園、山口緑地、創成川公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、豊平川緑地

(2) 商品

飲食物、植物、絵葉書、しおり、その他公園施設関連商品等

(3) 収入金額

9,257,997 円

3 自動販売機の設置運営

公園緑地・施設に自動販売機を設置し、清涼飲料水、冷菓等を販売した。

(1) 設置場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、発寒西陵公園、手稲稲積公園、北発寒公園、前田森林公園、明日風公園、山口緑地、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、西岡中央公園、清田公園、東雁来公園

(2) 収入金額

21,995,423 円

評議員会及び理事会の開催等

(以下は全て承認・議決された)

評 議 員 会

定時評議員会(令和3年6月21日開催)

議 題 報告事項

令和2年度(2020年度)事業報告の件

決議事項

令和2年度(2020年度)決算承認の件

評議員選任の件

理事選任の件

監事選任の件

みなし決議(令和4年3月31日付け)

評議員選任の件

監事選任の件

理 事 会

令和3年度第1回理事会(令和3年6月4日開催)

議 題 報告事項

理事長及び専務理事の職務執行状況について

決議事項

令和2年度(2020年度)事業報告承認の件

令和2年度(2020年度)決算承認の件

評議員候補者選任の件

理事候補者選任の件

監事候補者選任の件

定時評議員会招集及び提出議題の件

みなし決議(令和3年6月21日付け)

理事長選定の件

専務理事選定の件

令和3年度第2回理事会(令和4年3月23日開催)

議 題 報告事項

理事長及び専務理事の職務執行状況報告の件

決議事項

令和4年度(2022年度)事業計画及び収支予算書の承認の件

みなし決議(令和4年3月25日付け)

評議員候補者選任の件

監事候補者選任の件

事務局長選任の件

令和３年度事業報告

令和３年度事業報告には重要な事項について全て詳細に記載し網羅している。

よって「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第8条第1項第2号に定める事業報告書の附属明細書はない。